



医療費適正化計画の目標値の現状について

神奈川県健康医療局保健医療部医療保険課

令和5年3月17日

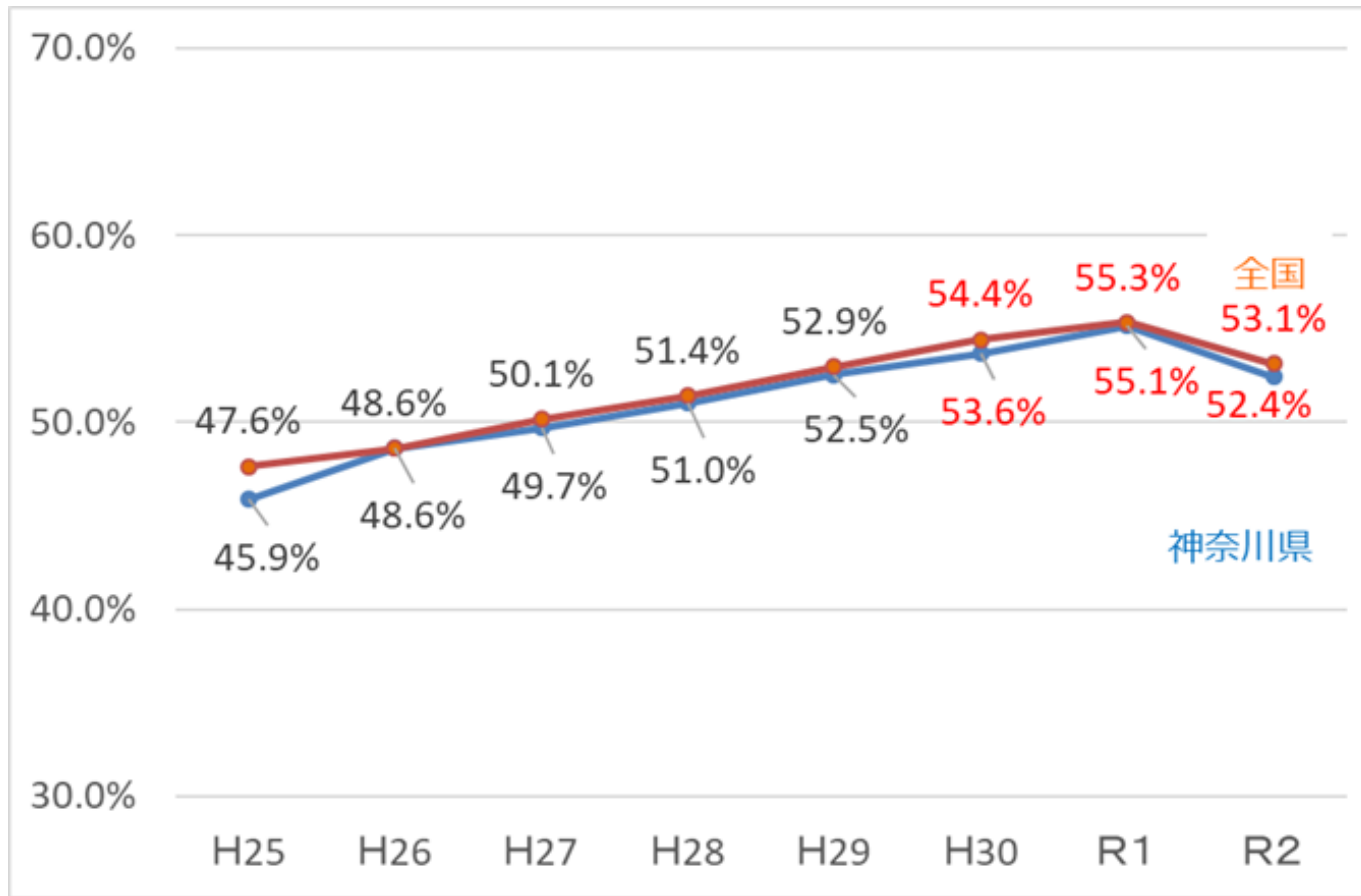
本日の説明・確認事項

- 1 特定健康診査の実施率について
- 2 特定保健指導の実施率について
- 3 メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率について
- 4 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について
- 5 後発医薬品の使用割合について
- 6 医療費適正化の効果について

1 特定健康診査の実施率について

【目標値 70%以上】

(1) 第二期計画から第三期計画にかけての実績値の推移



出典：【厚生労働省】特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況より

・ 特定健康診査の実施率は上昇傾向ですが、全国平均からは僅かに下回って推移しています。

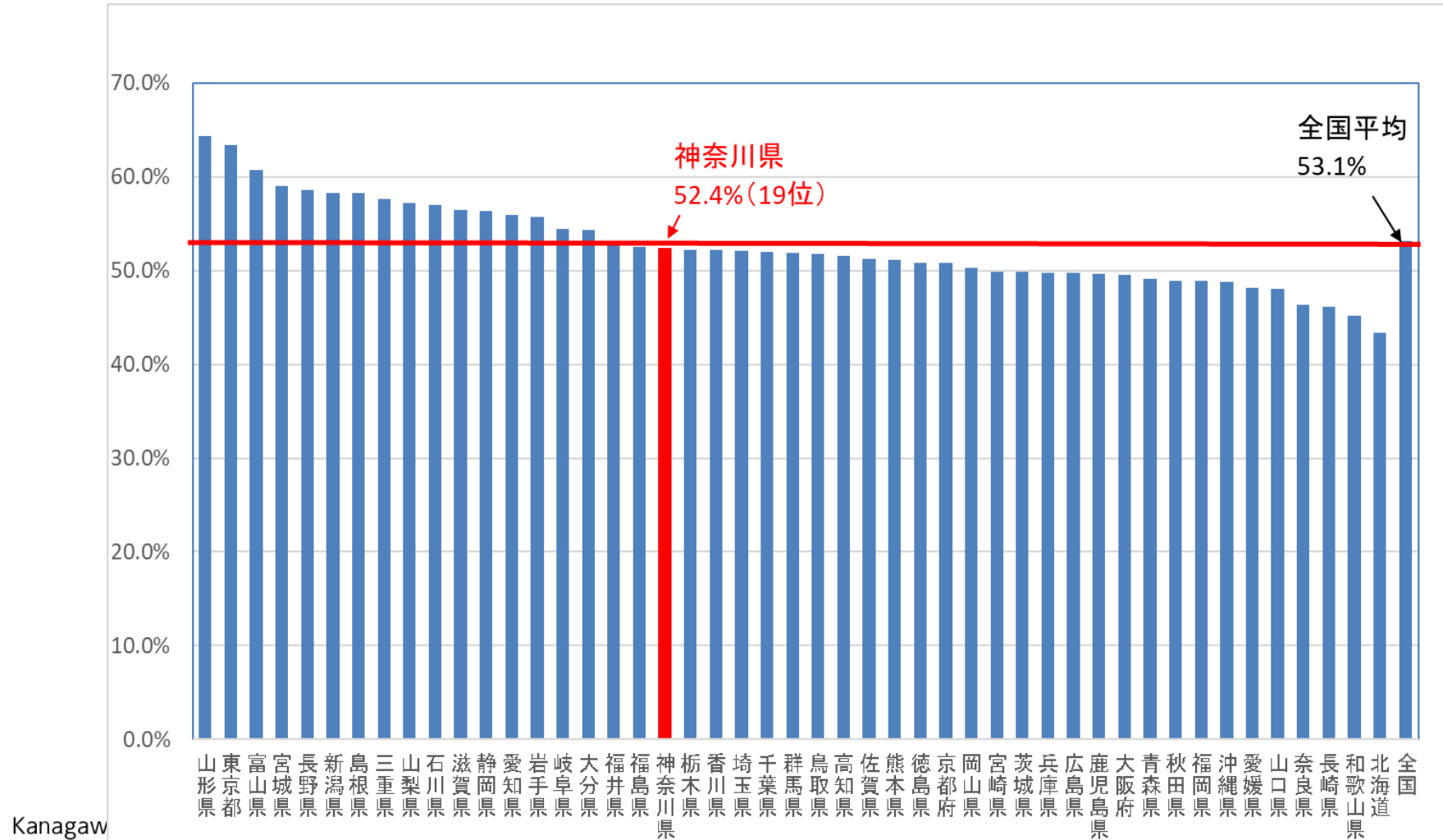
・ なお、令和2年度はコロナ禍による受診控えの影響で、実施率が下がっています。

・ 目標値の70%以上に対しては乖離があり、引き続き実施率の向上に向けて取組を進めていく必要があります。

1 特定健康診査の実施率について②

【目標値 70%以上】

(2) 令和2年度における目標値の現状



・ 特定健康診査の令和2年度の実施率は、全国19位です。

・ 特定健康診査は、特に多忙で時間が取れない個人事業主等の受診率が低く、市町村国民健康保険の加入者を中心に実施率が伸び悩んでいます。

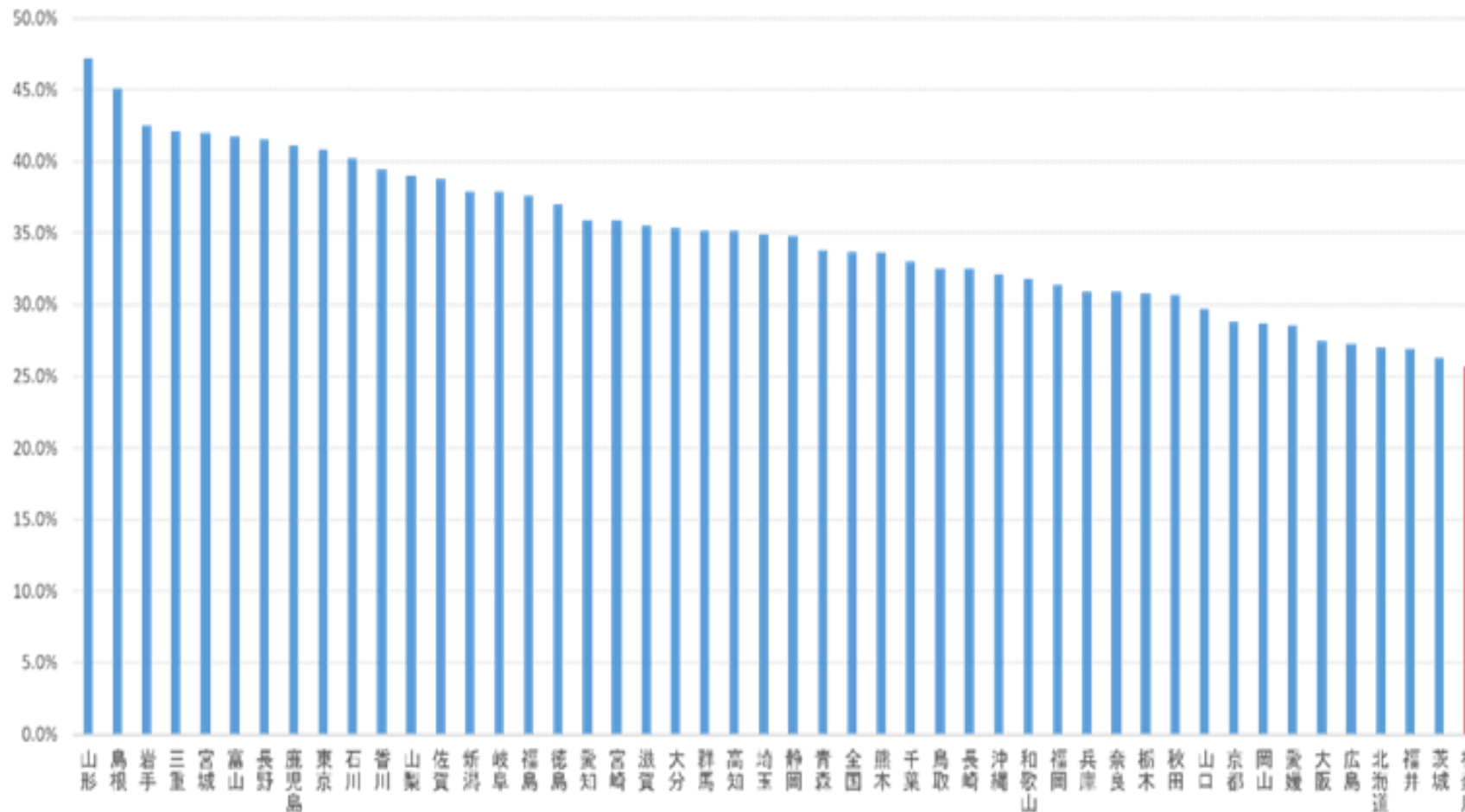
出典：【厚生労働省】特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況より

1 特定健康診査の実施率について③

【目標値 70%以上】

(3) 神奈川県国保の特定健康診査の実施率

① 全国における神奈川県国保の実施率



・神奈川県国保の特定健康診査の令和2年度の実施率は、全国最下位です。

・なお、コロナ禍により令和2年度の全国の実施率は4.3%減少し、神奈川県も3.1%減少しています。

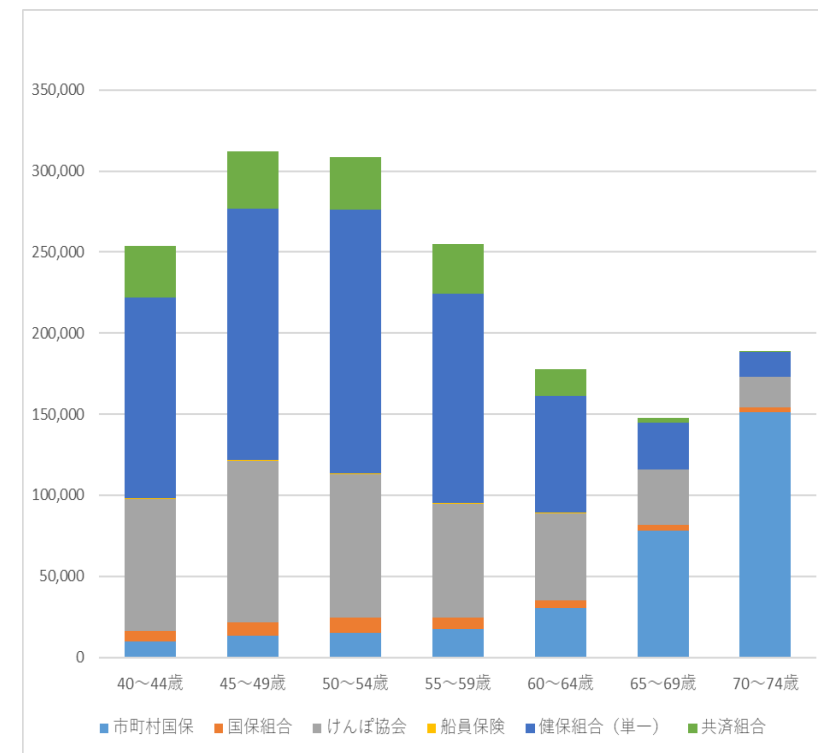
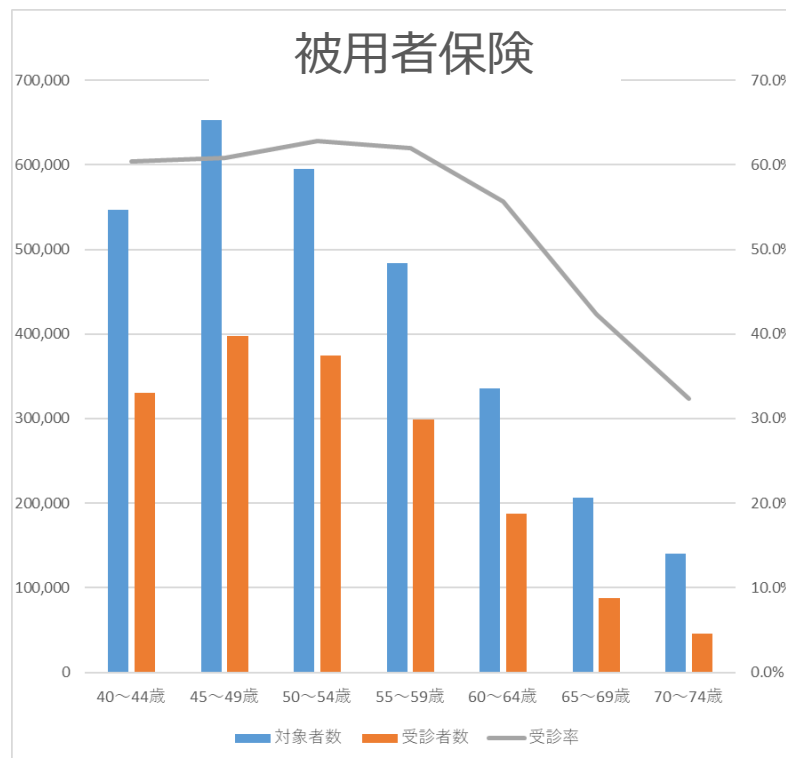
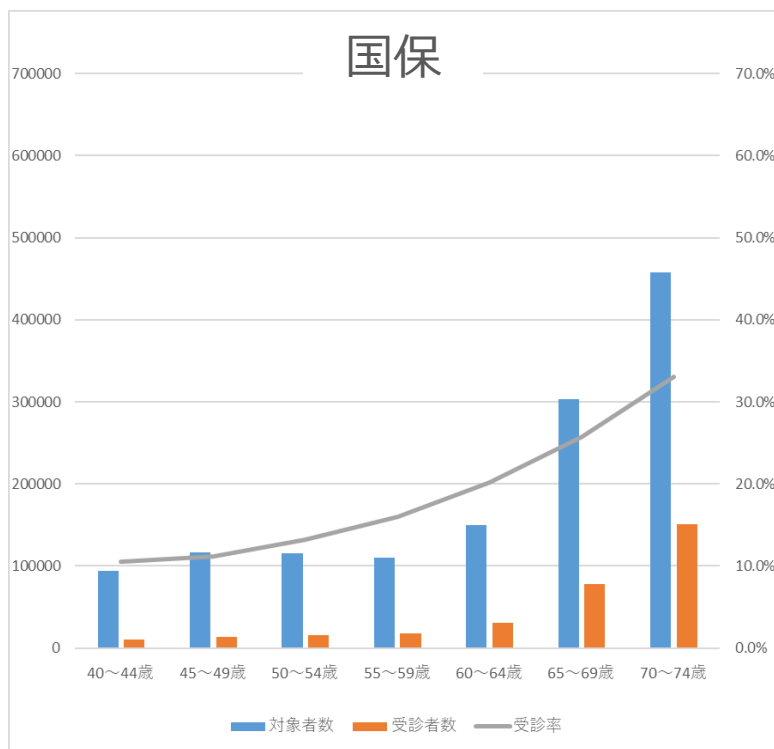
Kanag...

1 特定健康診査の実施率について④

【目標値 70%以上】

② 世代別国民保険及び被用者保険の特定健診受診者数等の推移

保険者別特定健診受診者数の推移（令和2年）

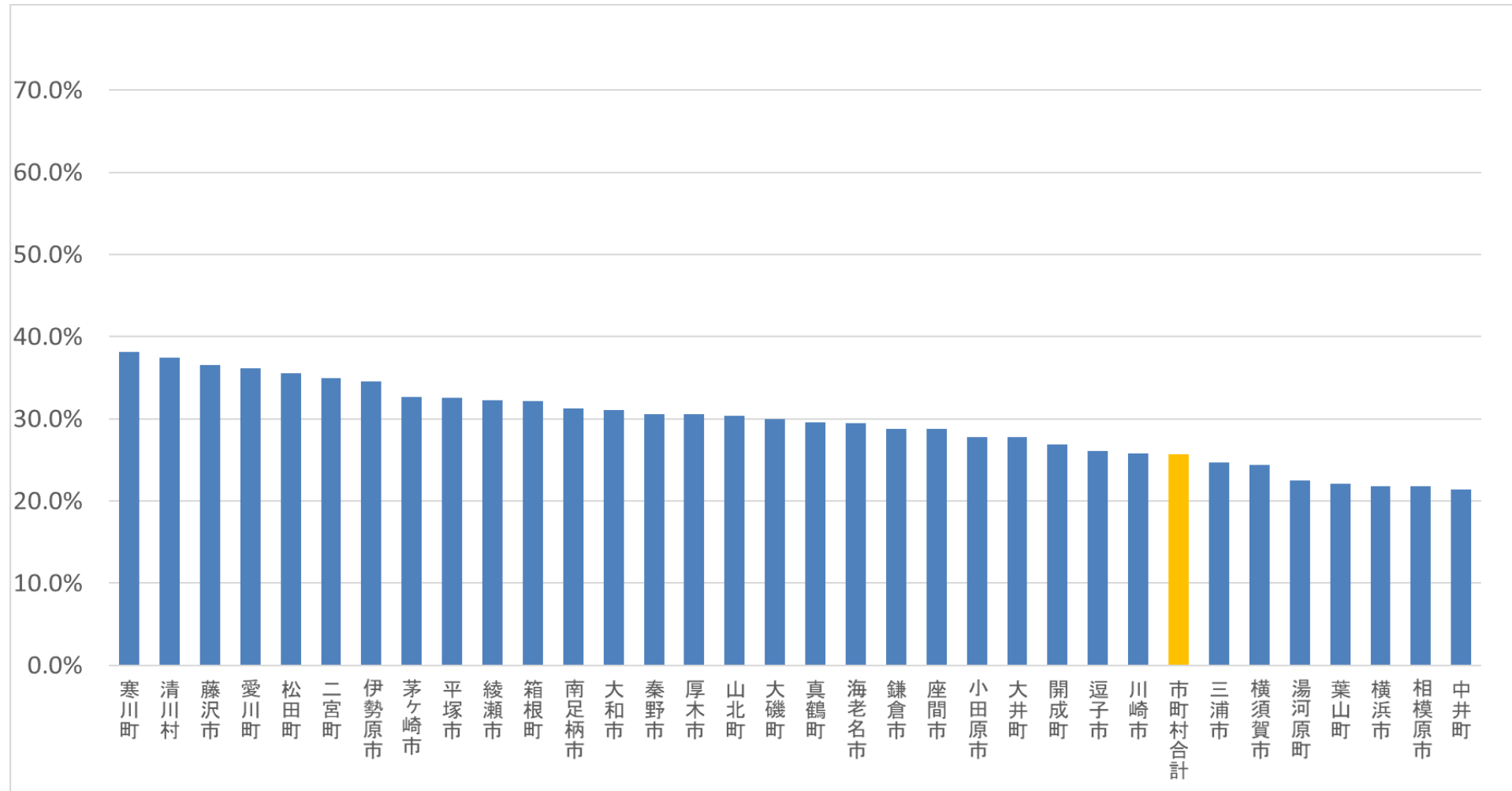


- ・ 国保においては、被用者保険に比べ若年層における受診率が低い傾向があります。

1 特定健康診査の実施率について⑤

【目標値 70%以上】

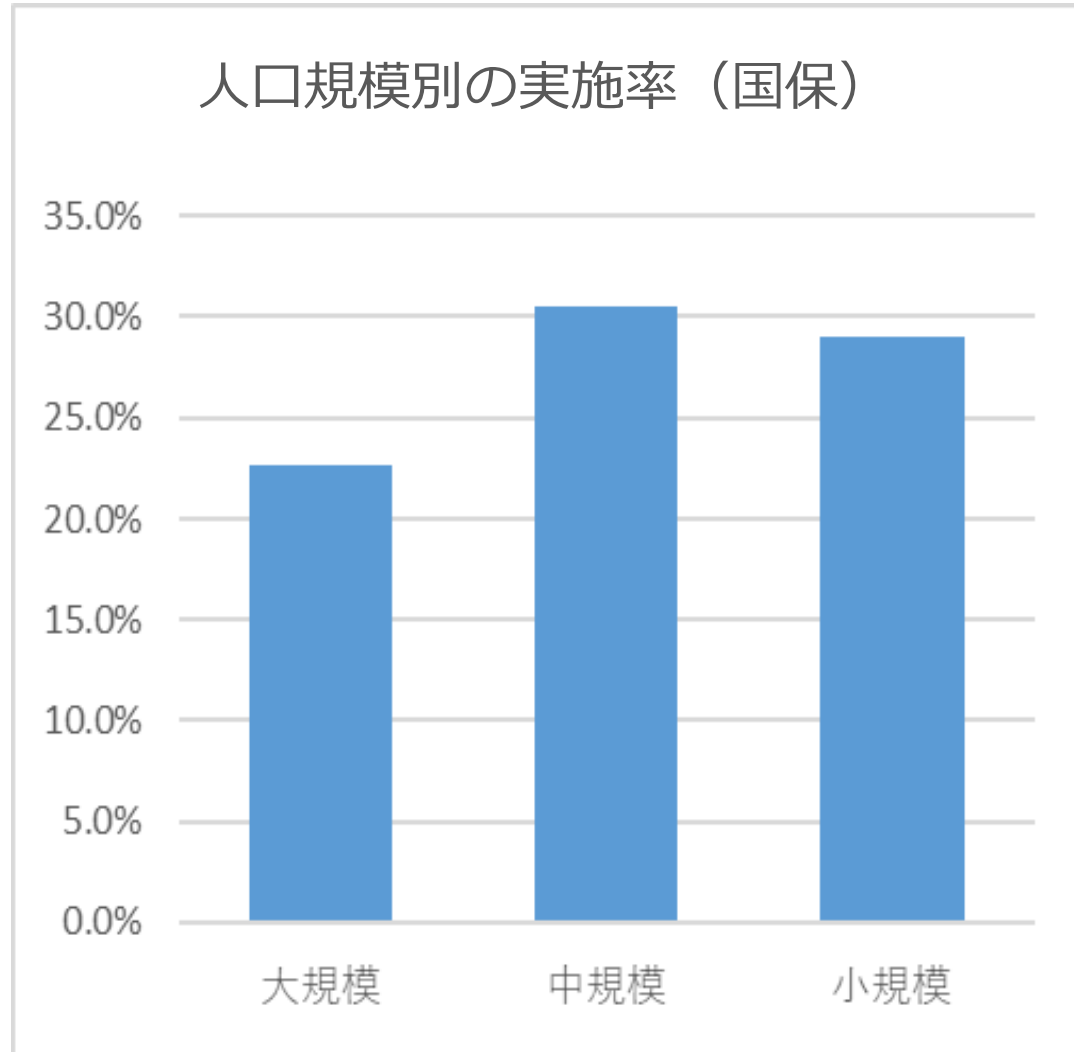
③ 保険者別の実施率



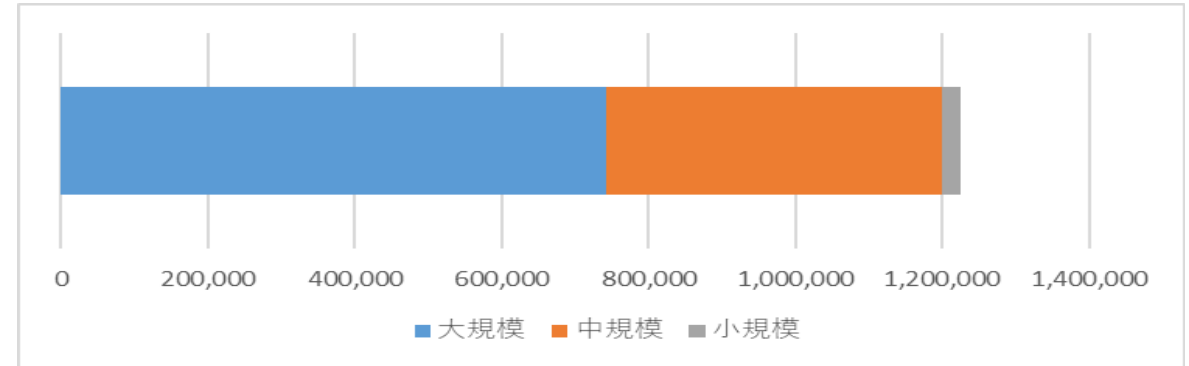
・保険者別の
実施率は
20%~30%
台後半に分布
しています。

1 特定健康診査の実施率について⑥ 【目標値 70%以上】

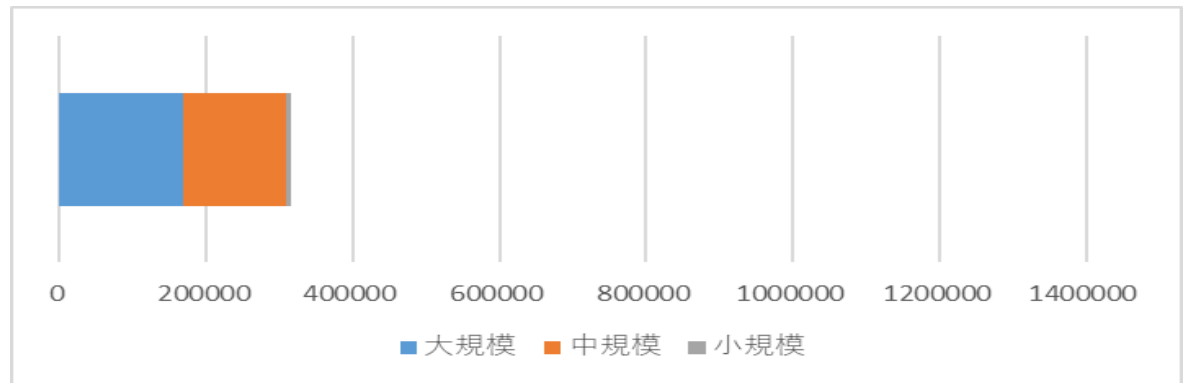
④ 人口規模別の実施率



人口規模別特定健康診査対象者数（国保）



人口規模別特定健康診査実施者数（国保）



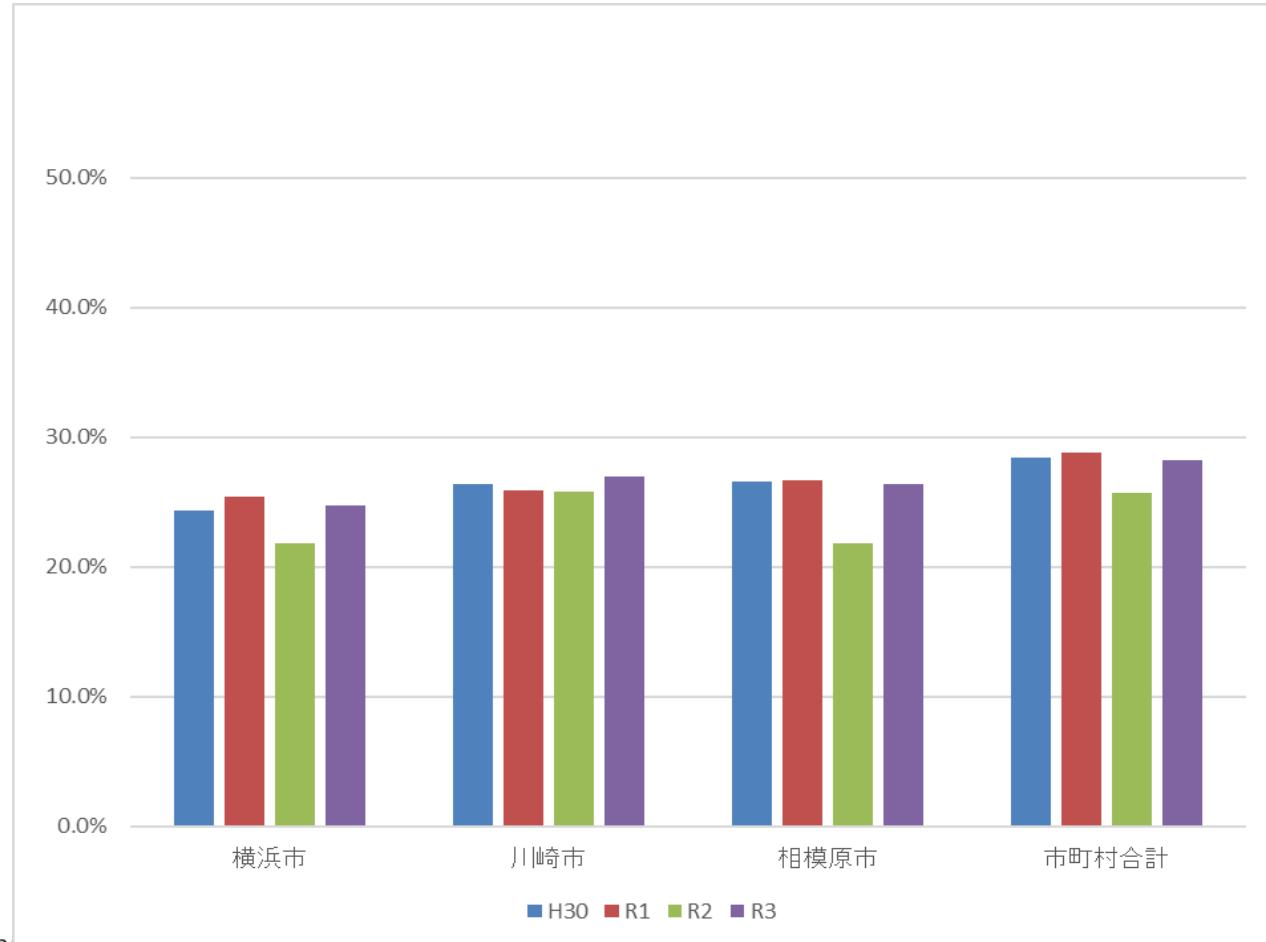
・対象者の約6割を占める大規模市町村での受診率が低いため、大規模市町村の実施率を向上させることが全体の実施率向上に有効であると推察されます。

1 特定健康診査の実施率について⑦

【目標値 70%以上】

(4) 第三期における県内国保保険者別実施率の推移

① 大規模市町村（特定健診対象者が10万人以上の保険者）



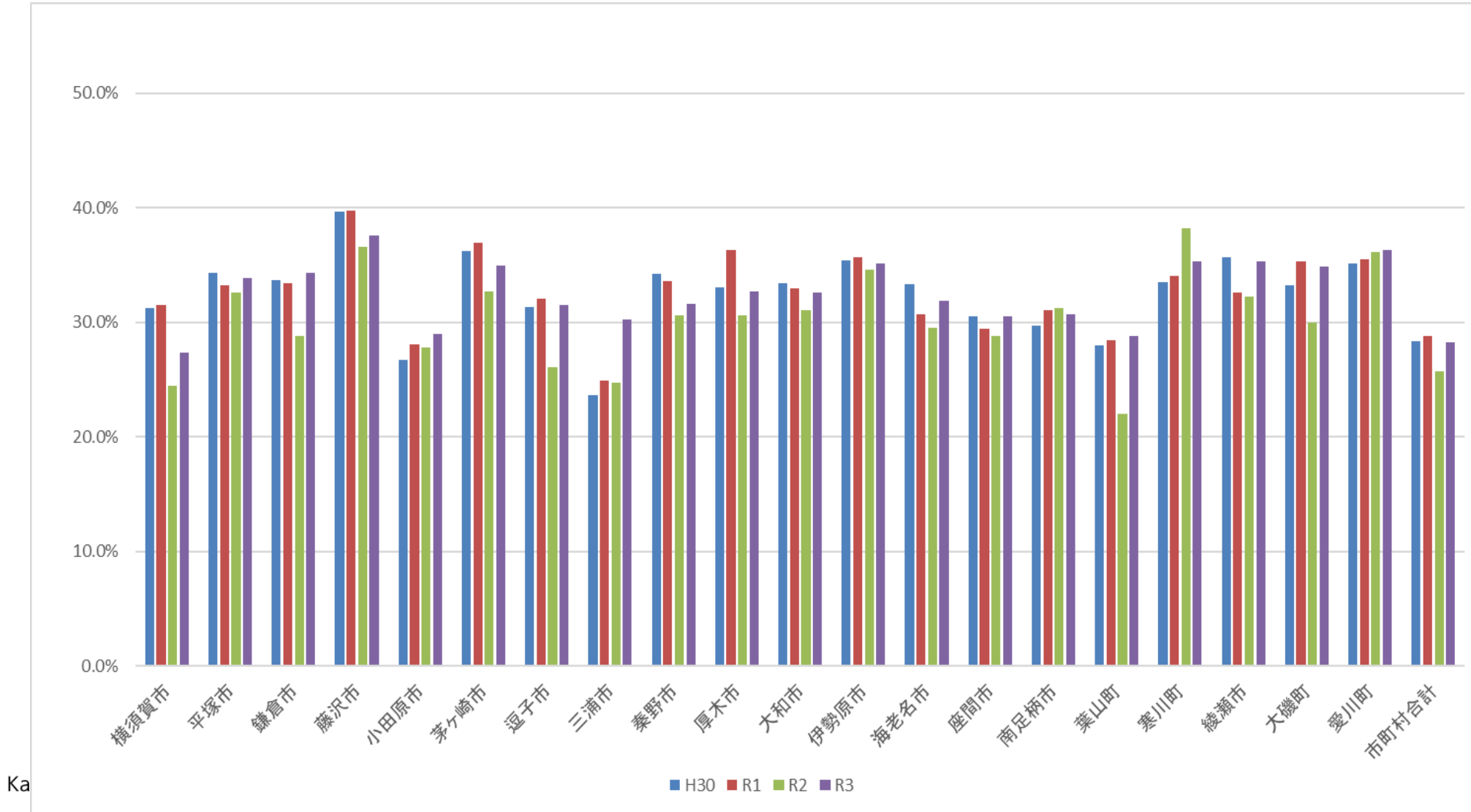
・ 第三期初頭の実施率は上昇傾向でしたが、令和2年度はコロナ禍により市町村が実施する健診が延期されたほか、受診控えが生じたため、実施率が下がっています。

・ 大規模市町村の実施率は概ね県平均より低い数値で推移しています。

出典：国民健康保険中央会：市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書より加工

1 特定健康診査の実施率について⑧ 【目標値 70%以上】

② 中規模市町村（特定健診対象者が5千人以上10万人未満の保険者）



・ 中規模市町村は、概ね県平均値よりも高い数値で推移しています。

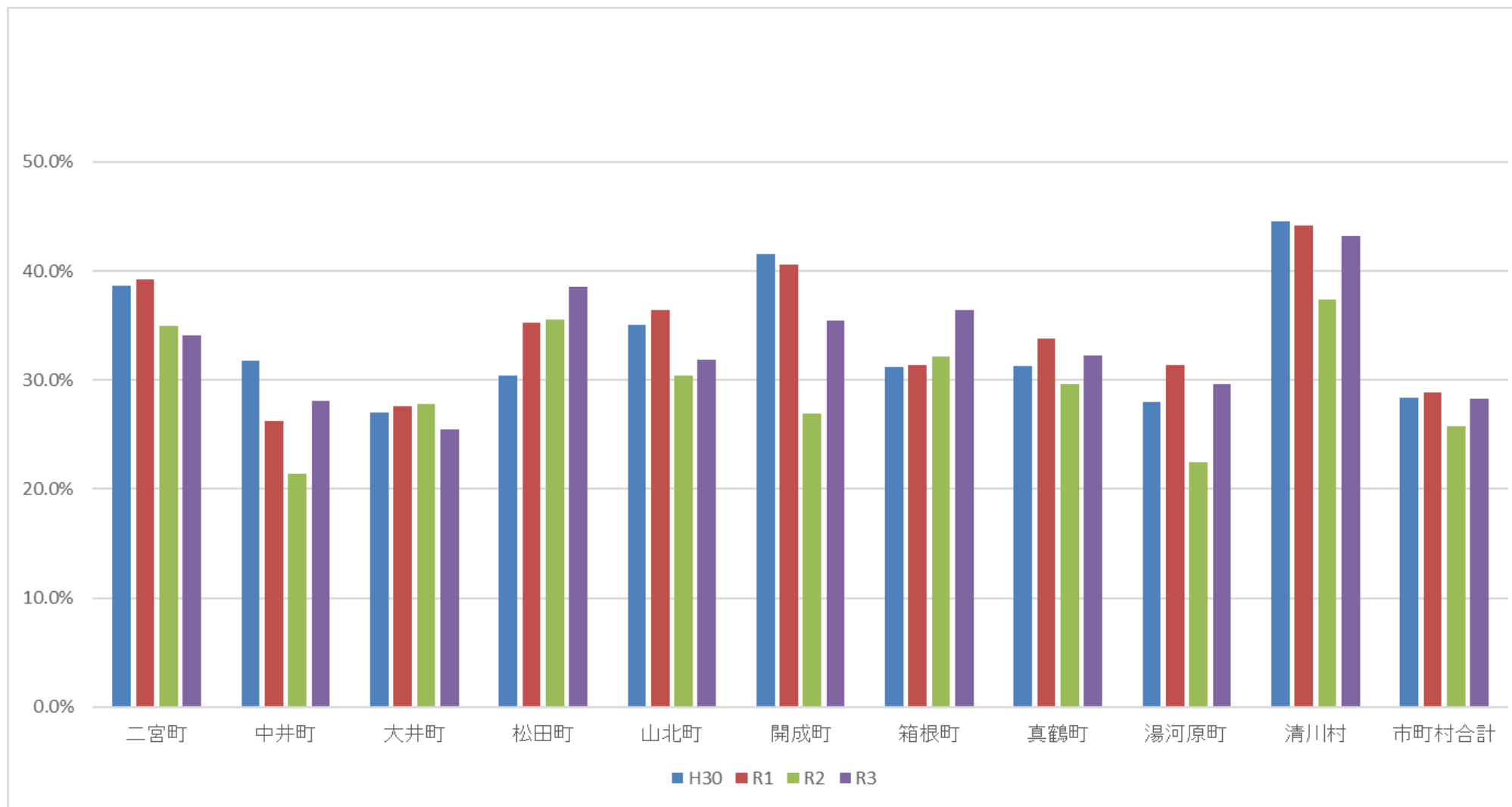
・ 令和3年度の実施率は令和2年度実施率を超える実績をあげた市町村も散見されます。

出典：国民健康保険中央会：市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書より加工

1 特定健康診査の実施率について⑨

【目標値 70%以上】

③ 小規模市町村（特定健診対象者が5千人未満の保険者）

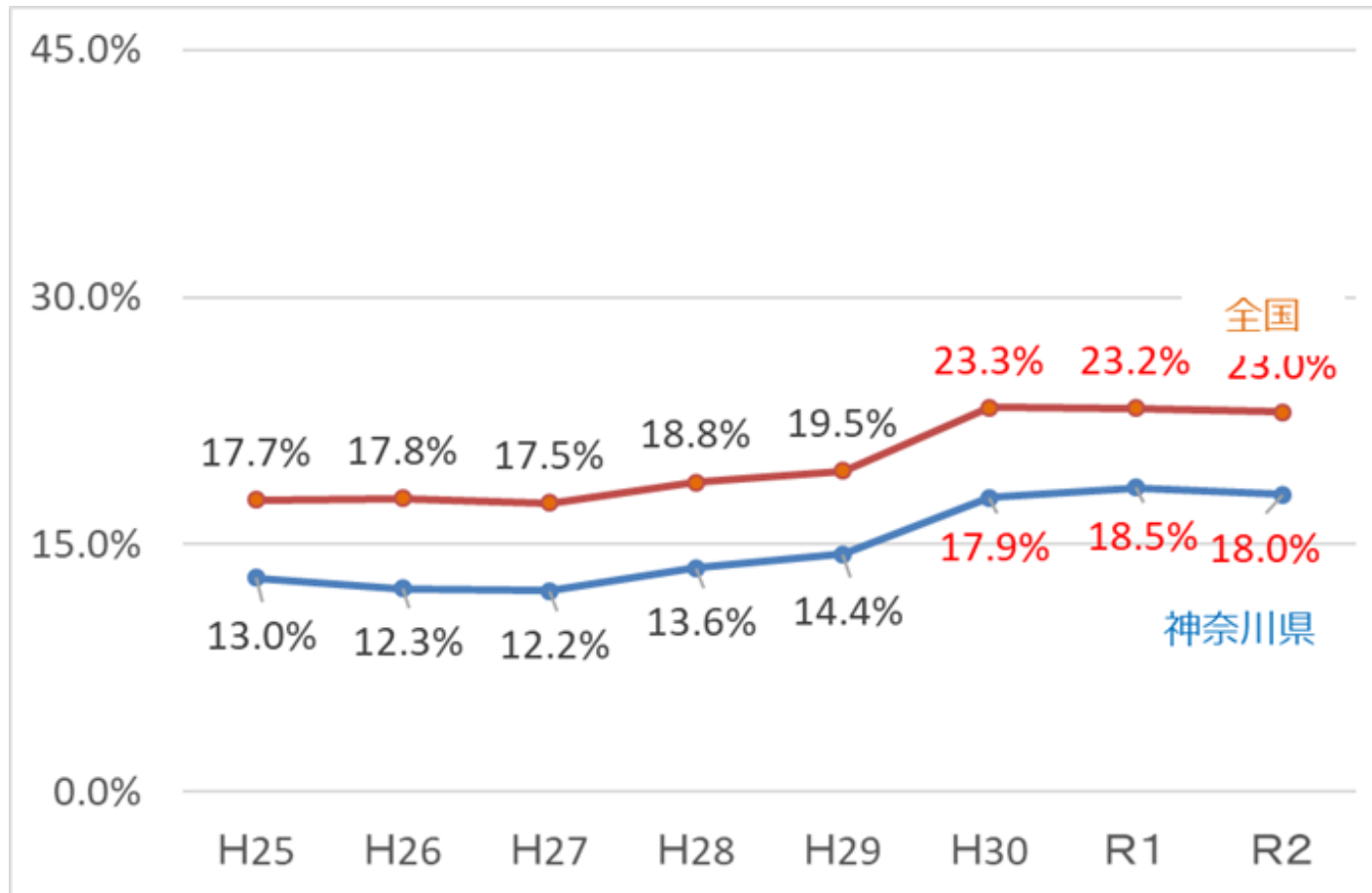


・小規模市町村は、概ね県平均値よりも高い数値で推移しています。

・ほとんどの市町村で令和3年度の実施率は令和2年度の実施率を超えました。

2 特定保健指導の実施率について 【目標値 45%以上】

(1) 第二期計画から第三期計画にかけての実績値の推移



・ 特定保健指導の実施率は上昇傾向ですが、全国平均との差は横ばいです。

・ なお、令和2年度はコロナ禍で、対面による保健指導の実施が難しかったため、受診率がわずかに下がっています。

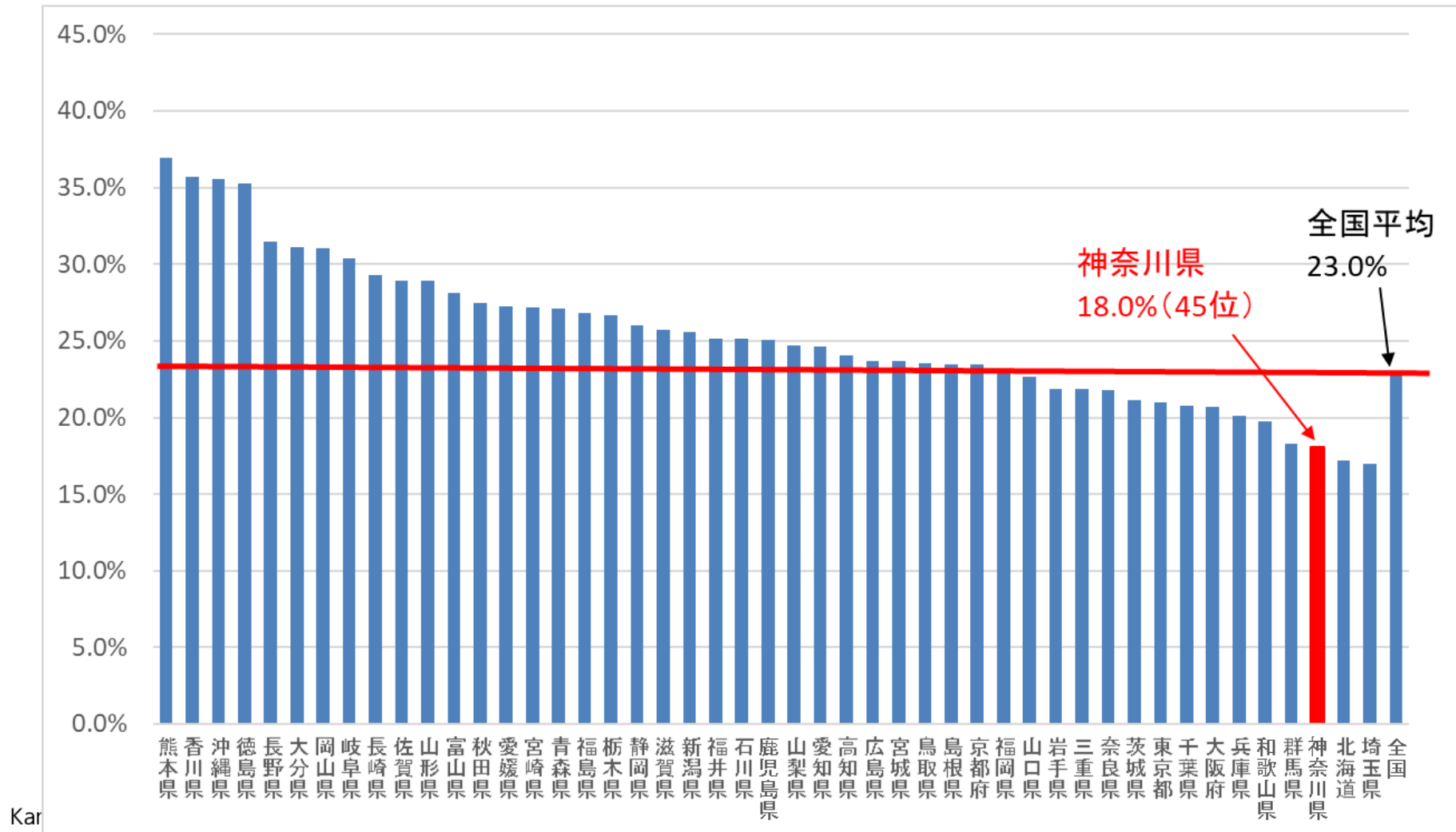
・ 目標値の45%以上に対しては大きな乖離があり、引き続き実施率の向上に向けて更なる取組を進めていく必要があります。

出典：【厚生労働省】特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況より

2 特定保健指導の実施率について②

【目標値 45%以上】

(2) 令和2年度における目標値の現状



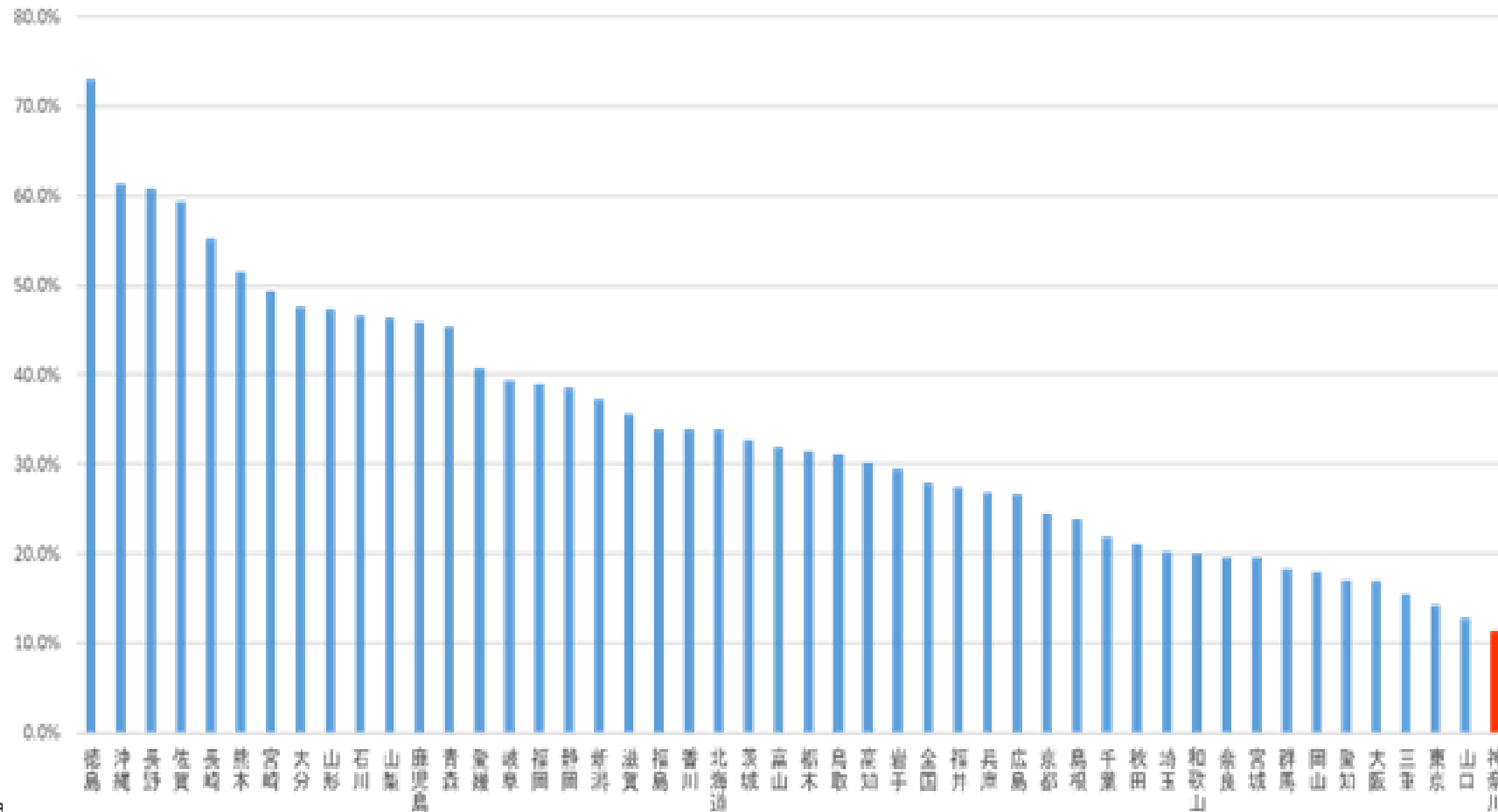
・ 特定健康診査の令和2年度の実施率は、全国45位となっており、特定保健指導の実施率向上に向けた取組みが引き続き求められています。

2 特定保健指導の実施率について③

【目標値 45%以上】

(3) 神奈川県国保の特定保健指導の実施率

① 全国における神奈川県国保の実施率



Kana

・神奈川県国保の特定保健指導の令和2年度の実施率は、全国最下位です。

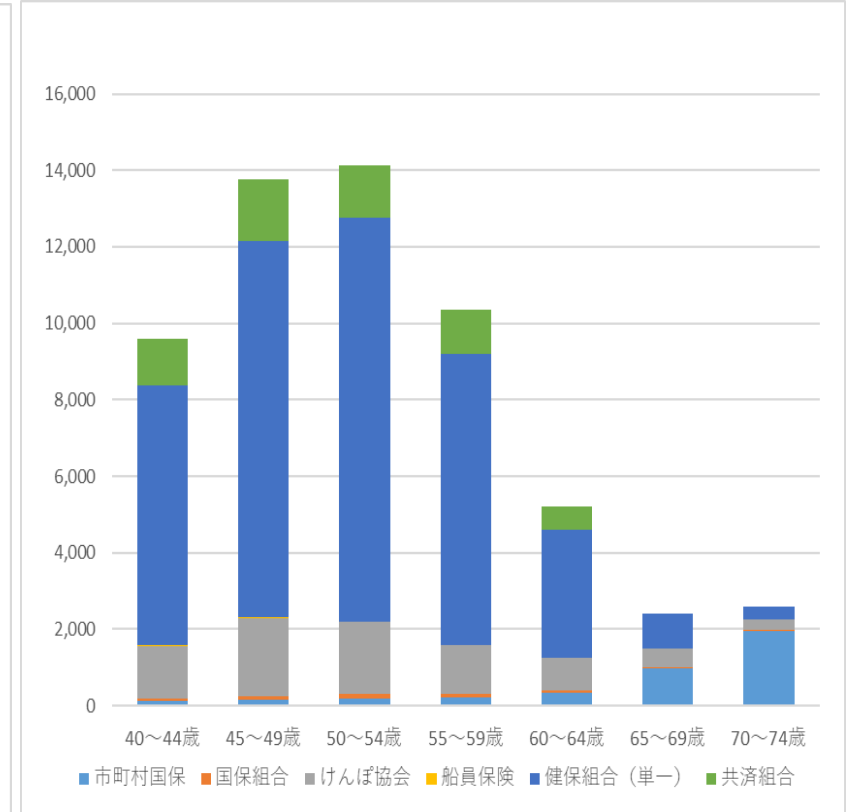
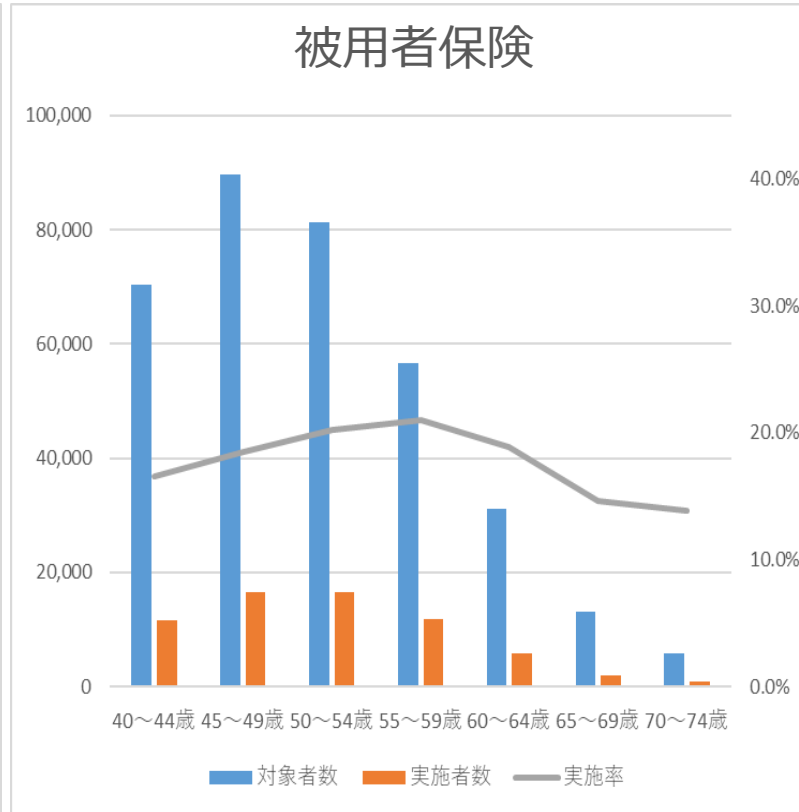
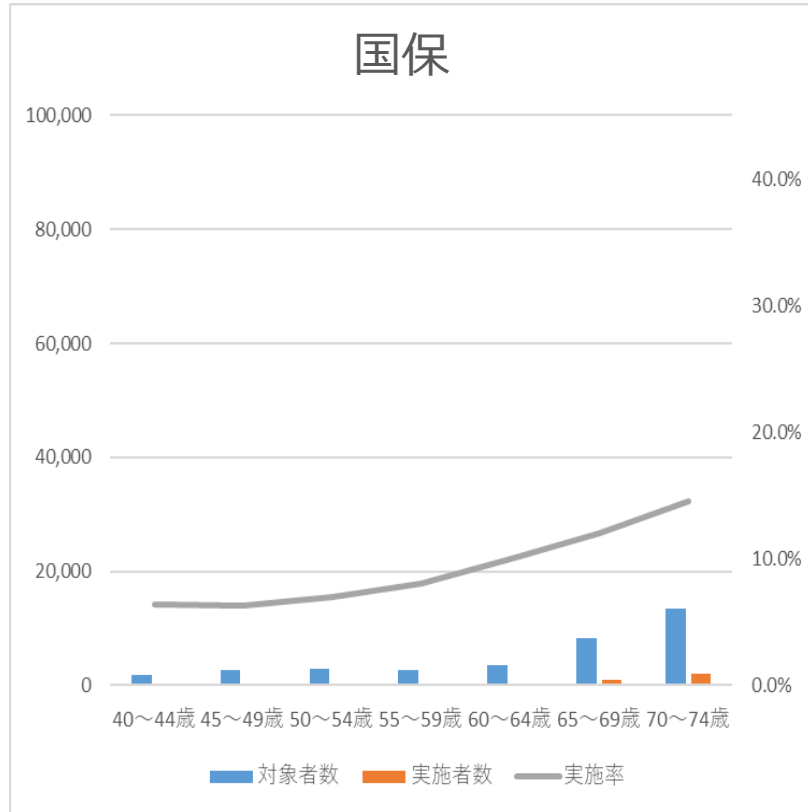
・なお、コロナ禍により令和2年度の全国の実施率は1.4%減少し、神奈川県も0.3%減少しています。

2 特定保健指導の実施率について④

【目標値 45%以上】

② 国民保険及び被用者保険の対象者数と実施者数の推移

保険者別特定保健指導終了者数の推移（令和2年）

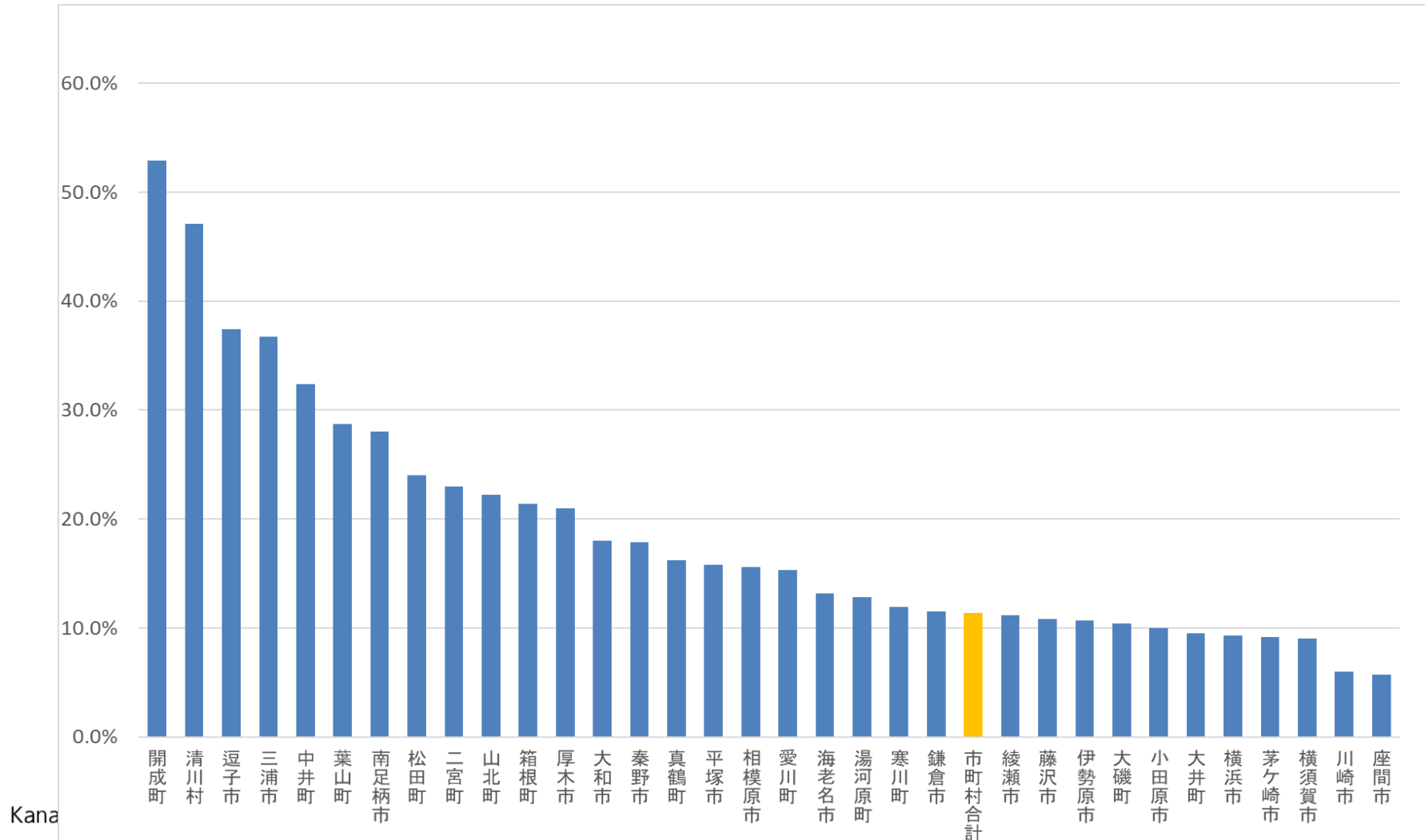


・国保も被用者保険も実施率は低い状況です。なお、国保は特定健診の受診率が低いことから、本来特定保健指導の対象となる被保険者が対象として抽出されていない可能性があります。

2 特定保健指導の実施率について⑤

【目標値 45%以上】

③ 保険者別の実施率



・保険者別にみると、目標値（45%以上）を超える実施率の市町村があります。

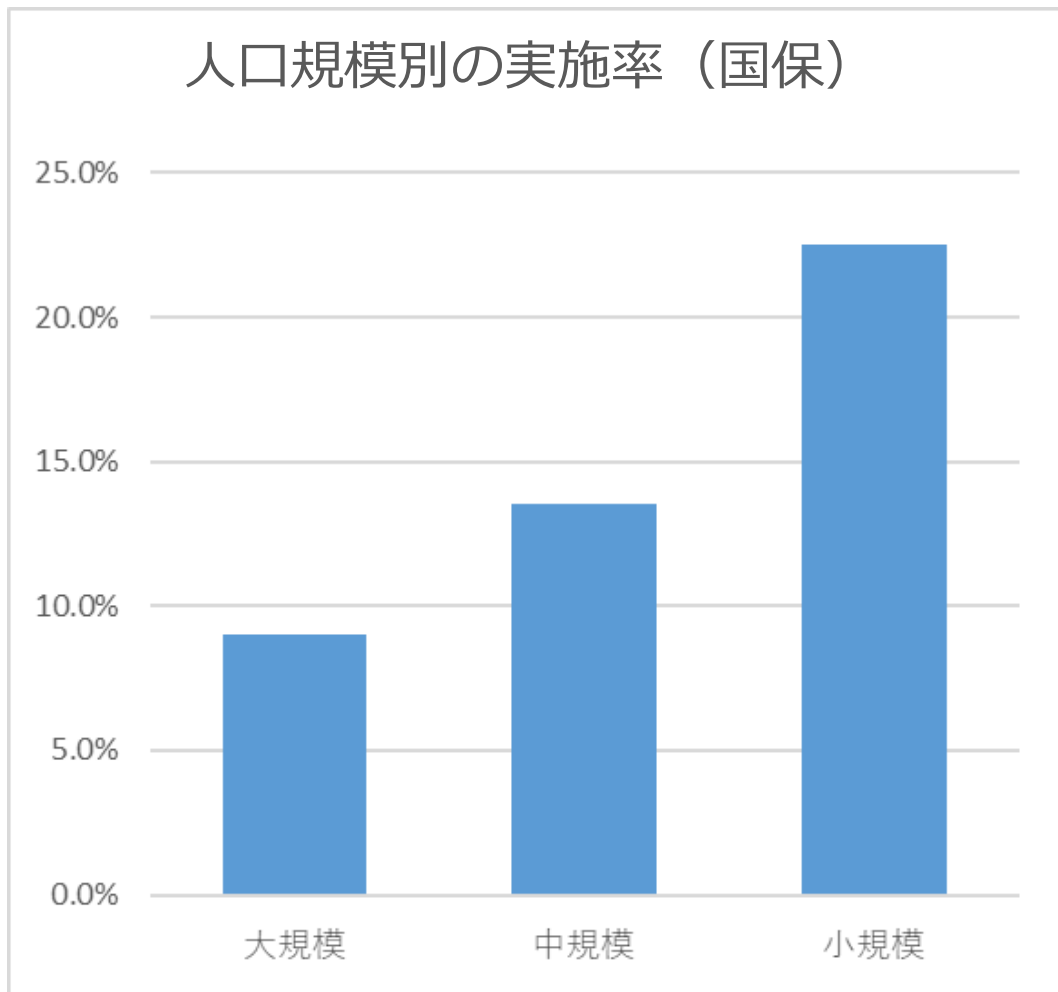
・また、その他の市町村は10%未満から30%台後半まで、実施率に差があります。

出典：国民健康保険中央会：市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書より

2 特定保健指導の実施率について⑥

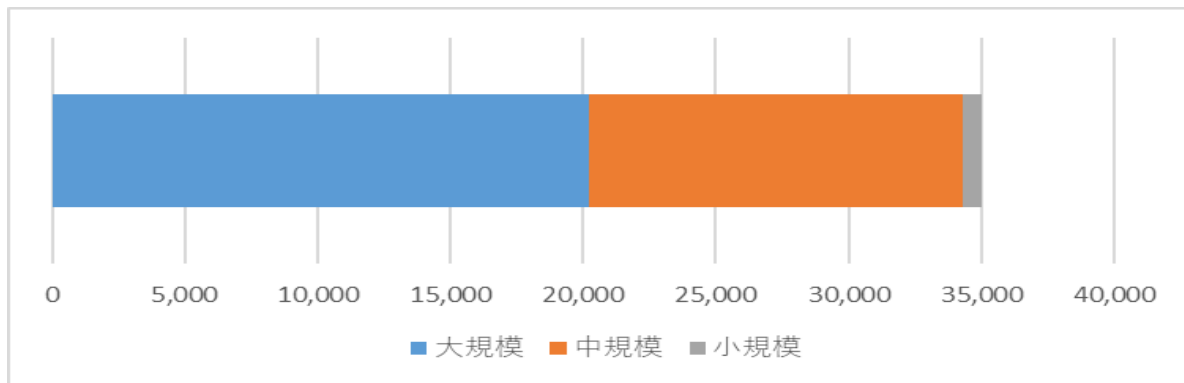
【目標値 45%以上】

④ 人口規模別の実施率

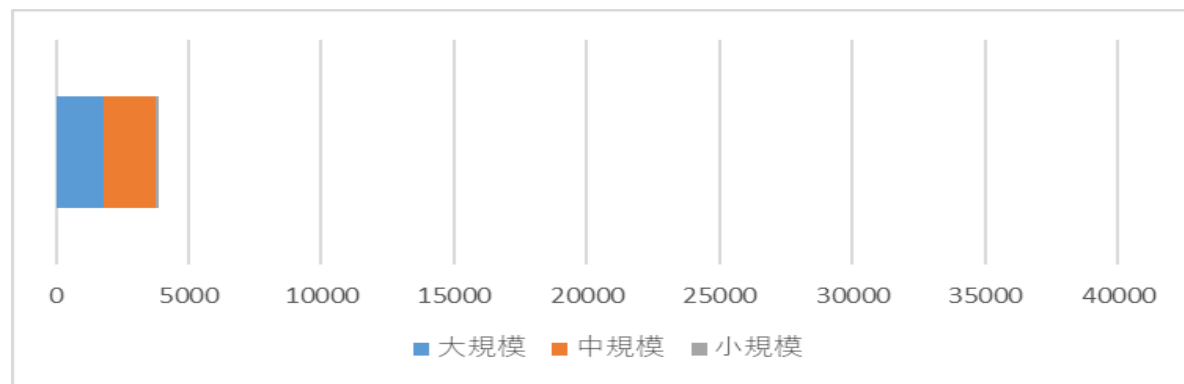


Kanagawa Prefectural Government

人口規模別特定保健指導対象者数（国保）



人口規模別特定保健指導実施者数（国保）



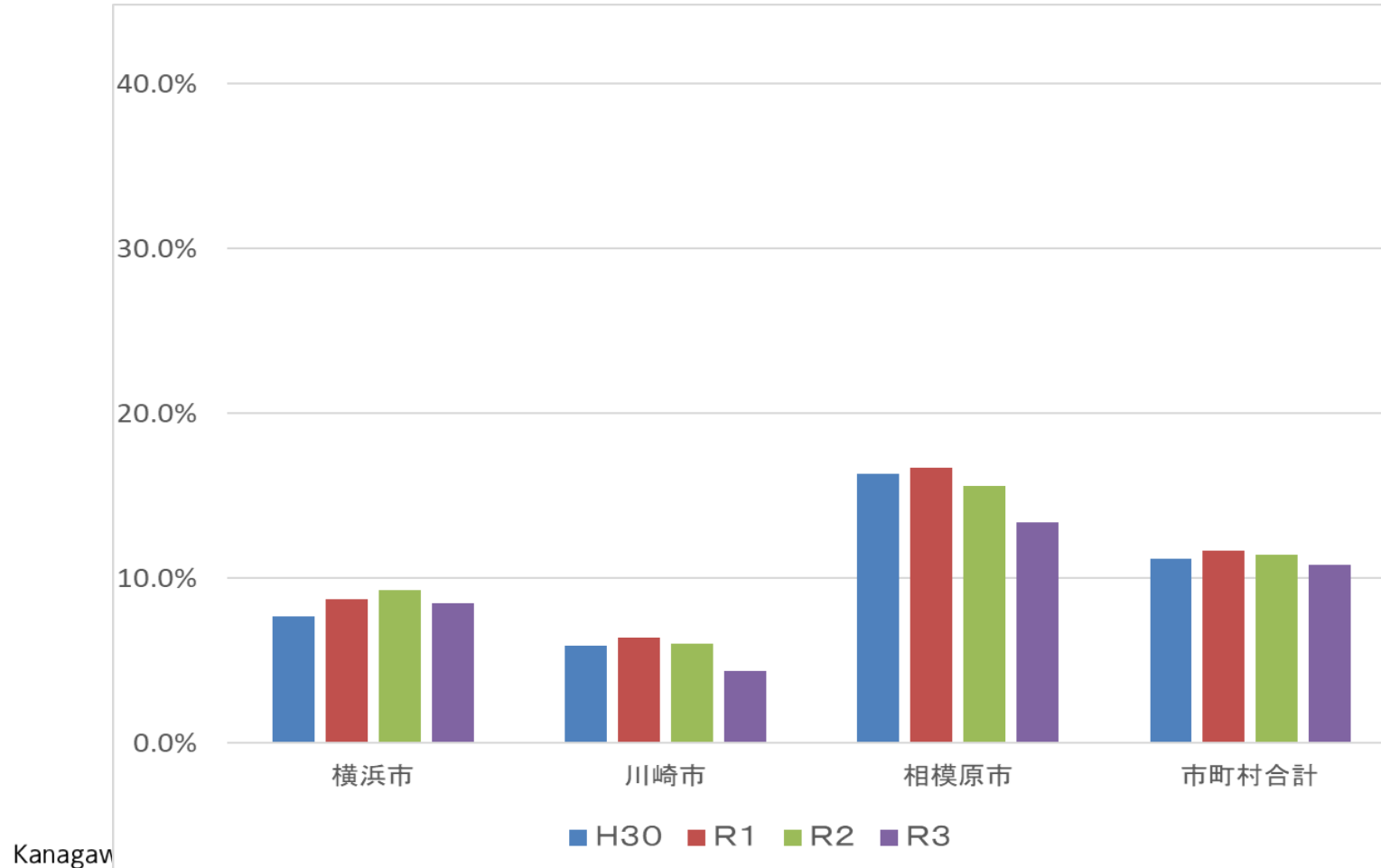
・対象者の約6割を占める大規模市町村で実施率が低いため、大規模市町村の実施率を向上させることが全体の実施率向上に有効であると推察されます。

2 特定保健指導の実施率について⑦

【目標値 45%以上】

(4) 第三期における県内国保保険者別実施率の推移

① 大規模市町村（特定健診対象者が10万人以上の保険者）



・ 第三期初頭の実施率は上昇傾向でしたが、令和2年度は対面による保健指導の実施が難しかったため、受診率が下がっています。

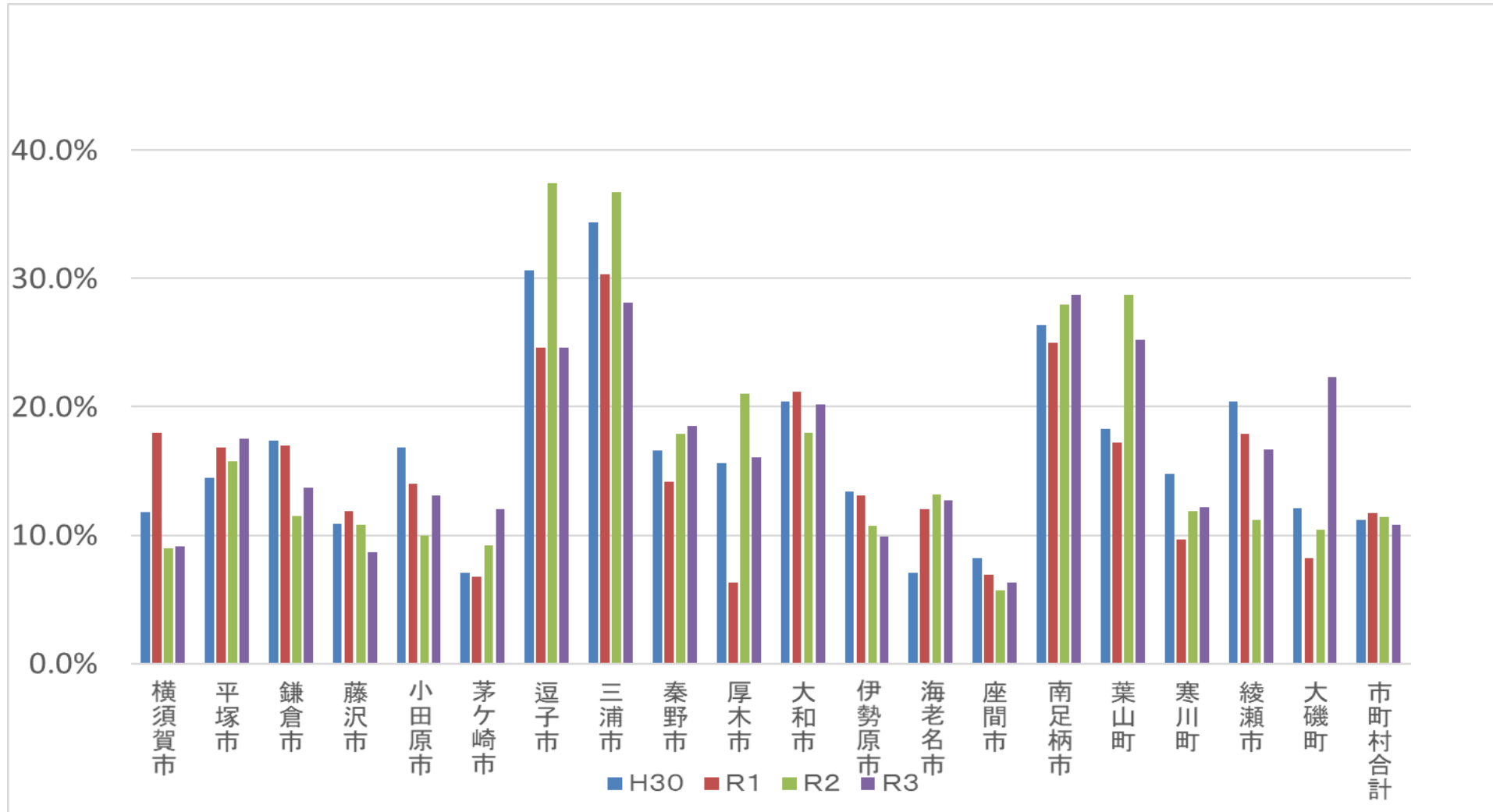
・ 大規模市町村の実施率は市町村により実施率に差があります。

出典：国民健康保険中央会：市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書より加工

2 特定保健指導の実施率について⑧

【目標値 45%以上】

② 中規模市町村（特定健診対象者が5千人以上10万人未満の保険者）



・中規模市町村は、概ね県平均値よりも高い実施率の市町村がほとんどです。

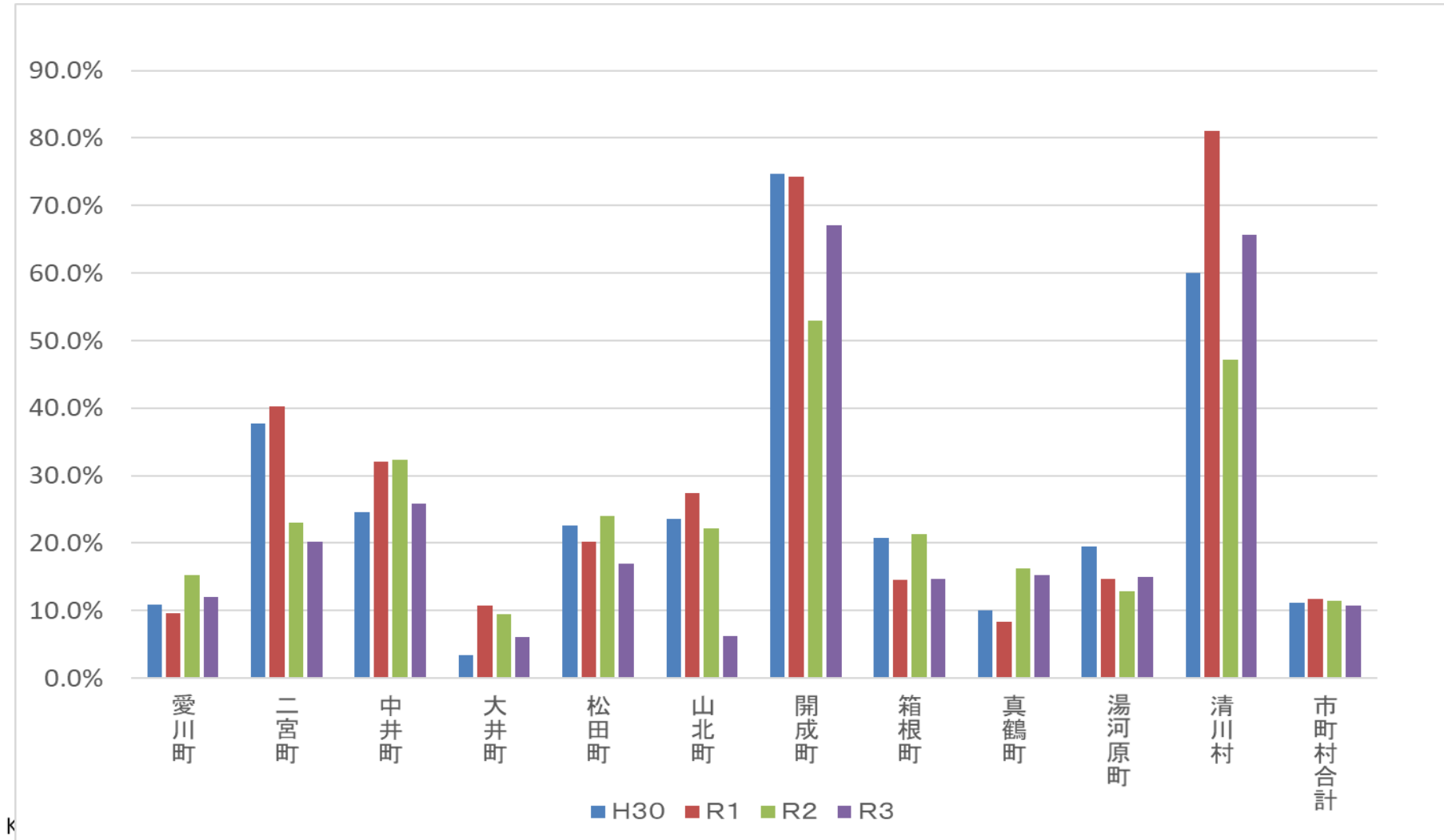
・令和3年度の実施率は令和2年度実施率を超える実績をあげた市町村も散見されます。

2 特定保健指導の実施率について⑨

【目標値

45%以上】

③ 小規模市町村（特定健診対象者が5千人未満の保険者）

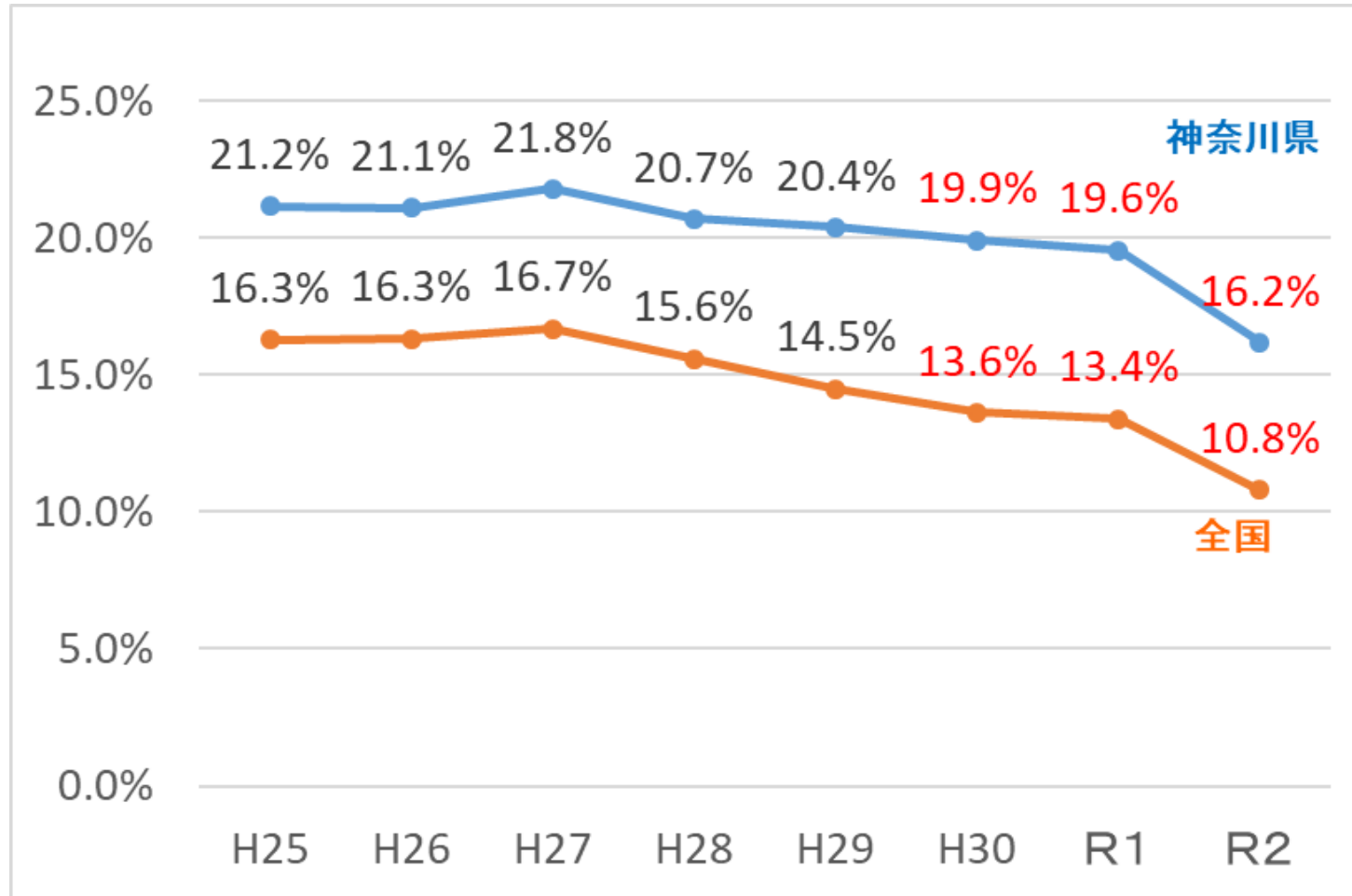


・小規模市町村は、概ね県平均値よりも高い数値で推移しています。

・ほとんどの市町村で令和3年度の実施率は令和2年度まで戻っていません。

3 メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率について 【目標値 平成20年度比20%以上】

(1) 第二期計画から第三期計画にかけての実績値の推移



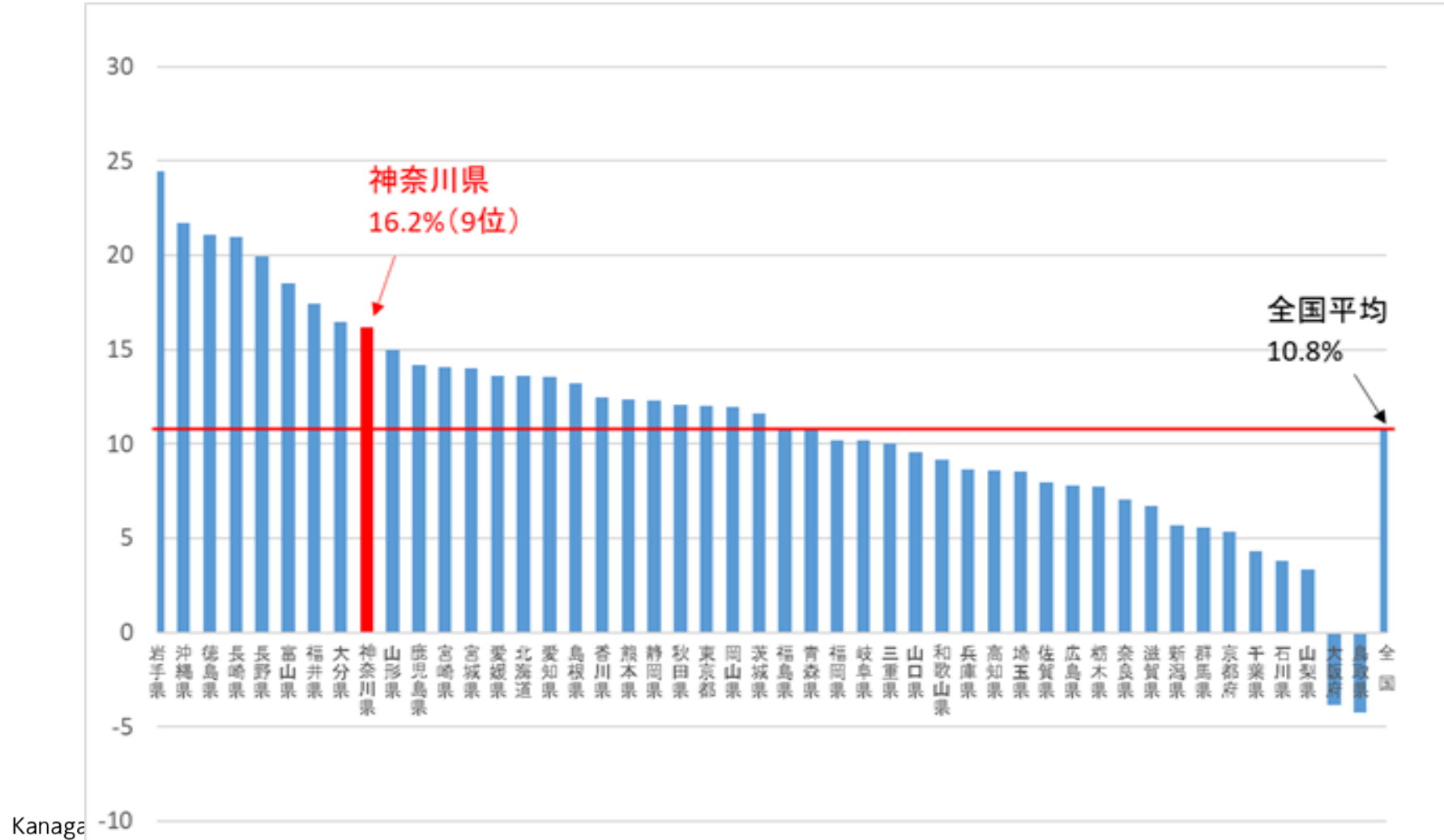
・メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率は、伸び悩んでいますが、全国よりは高い水準で推移しています。

・令和2年度の減少率は、コロナ禍による特定健診の受診控え等の影響もあり、減少率が大きく下がりました。

3 メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率について② 【目標値 平成20年度比20%以上】

(2) 令和2年度における目標値の現状

・メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率は、全国で平均より高い数値を達成しています。



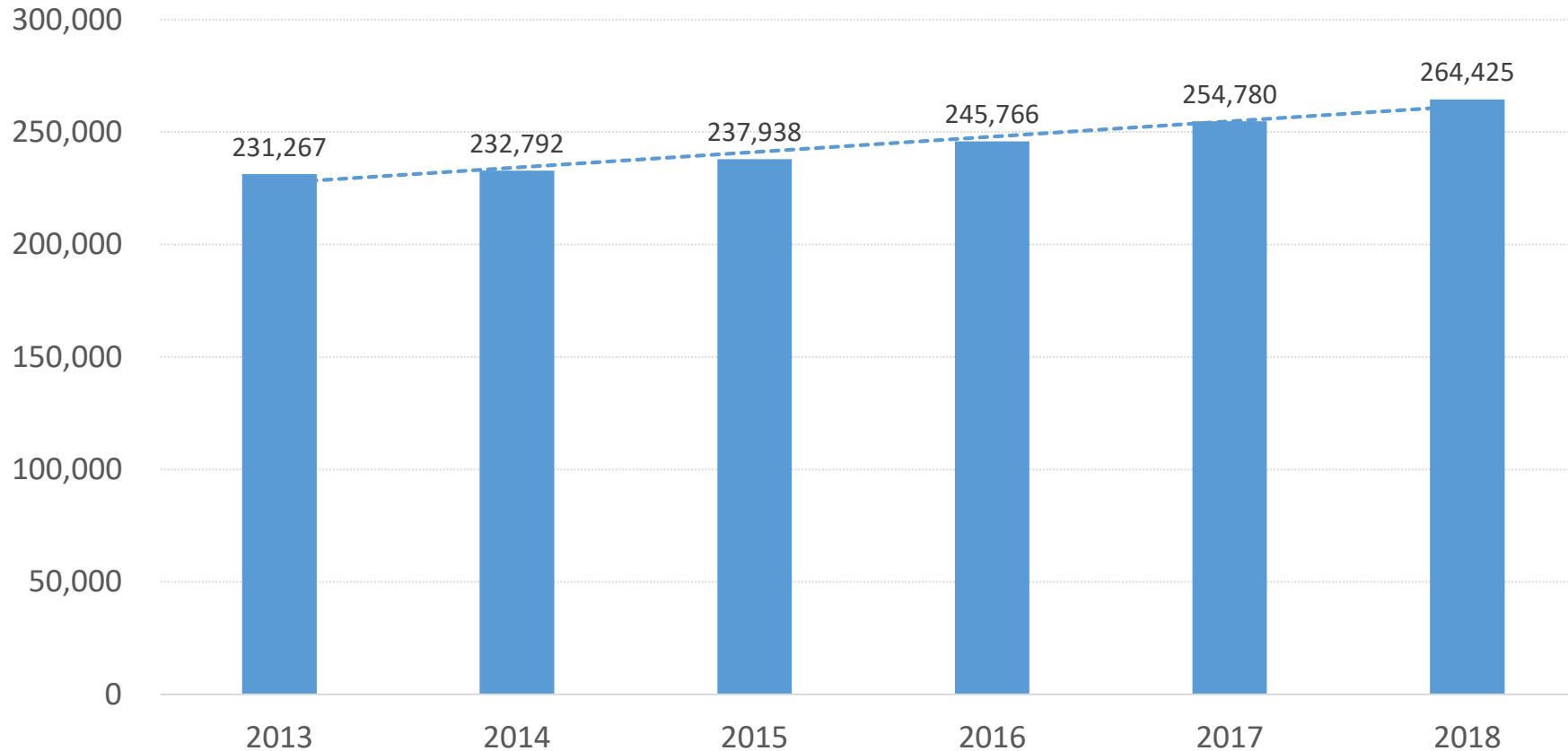
出典：【厚生労働省】メタボ減少率推計シートにより推計

4 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について

【目標値】 糖尿病有病者数の増加の抑制 22万人

(1) 第二期計画から第三期計画にかけての実績値の推移

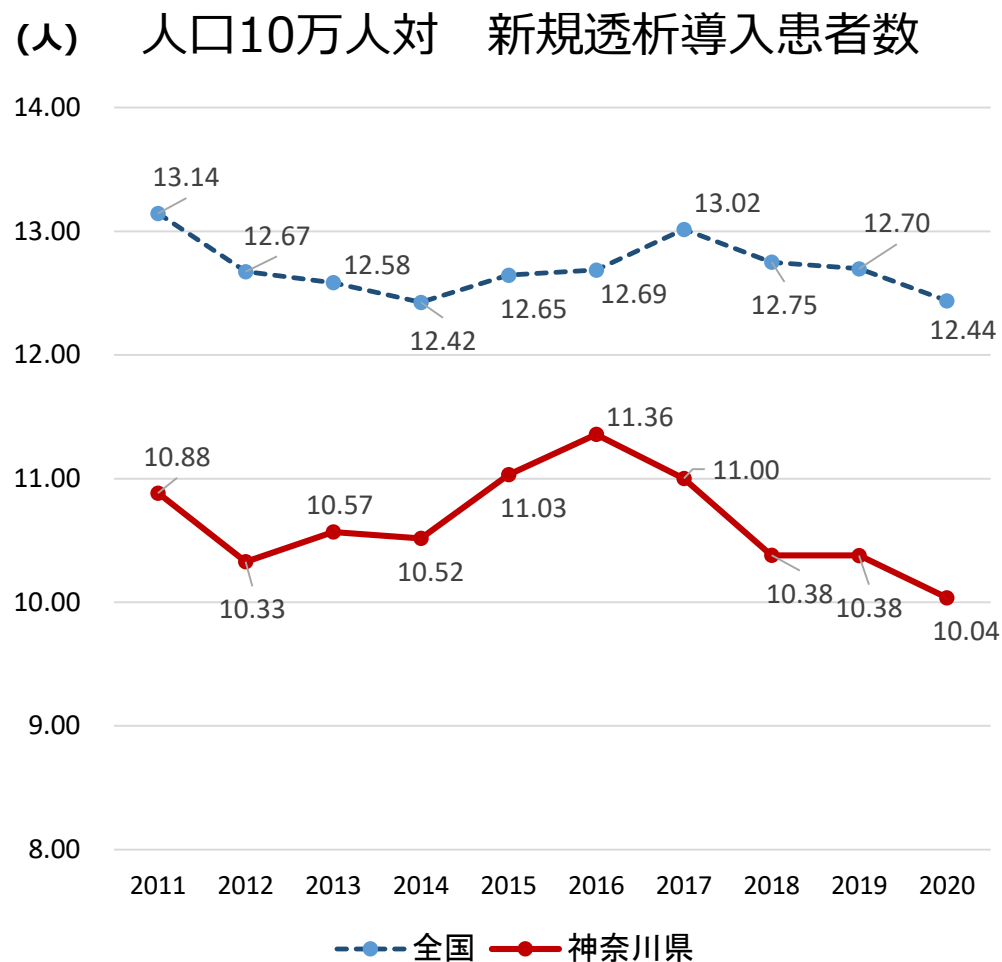
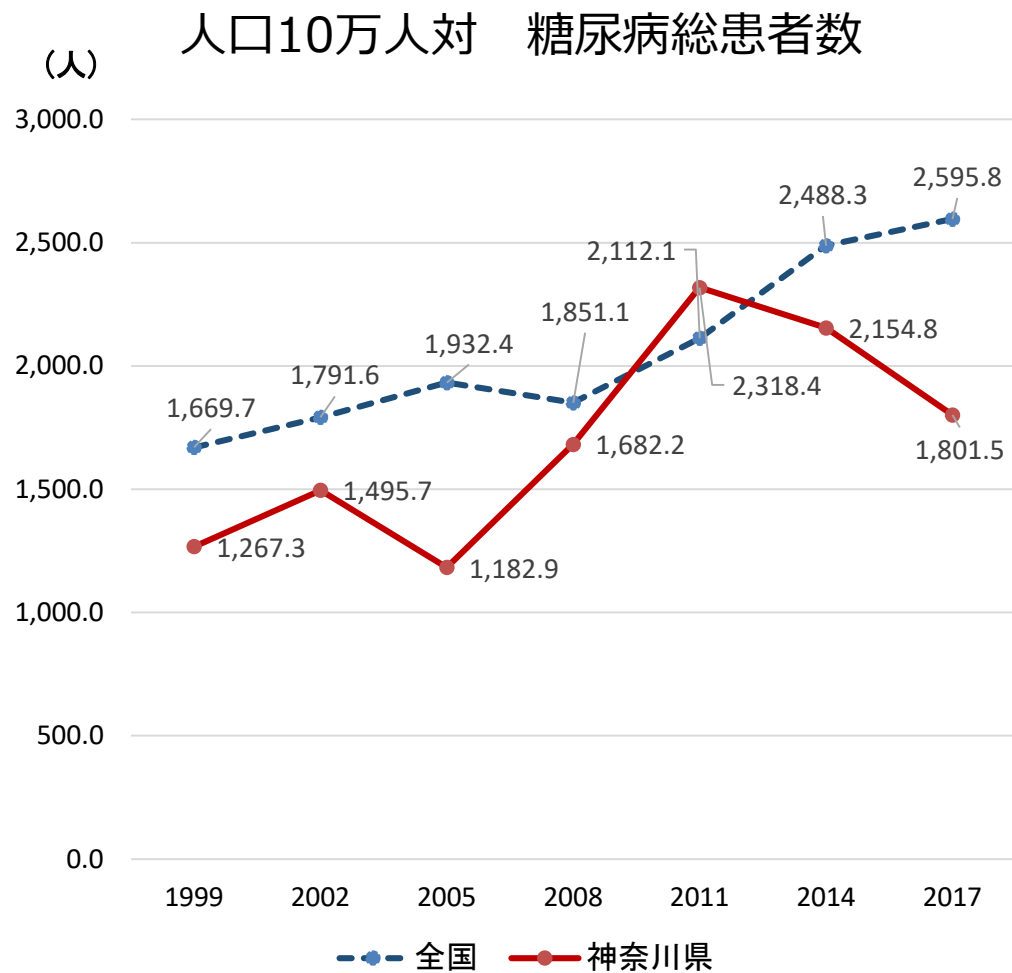
特定健診結果より糖尿病基準に該当する者の割合から算出



・ 健診の結果、糖尿病基準に該当する者は増加していることが推察されます。

4 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について②

(2) 神奈川県糖尿病総患者数等の現状



・全国では糖尿病患者が増加傾向ですが、神奈川県は減少傾向です。

・2016年(H28)より神奈川県は減少傾向、また全国と比較しても患者数は低い水準です。

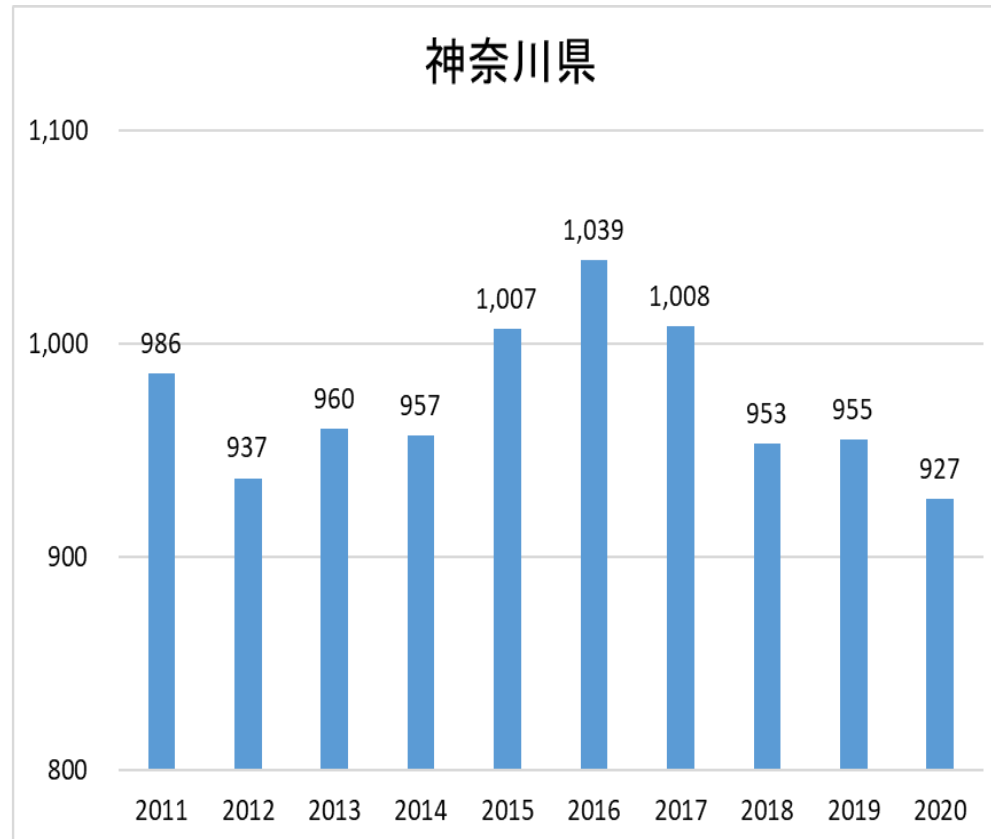
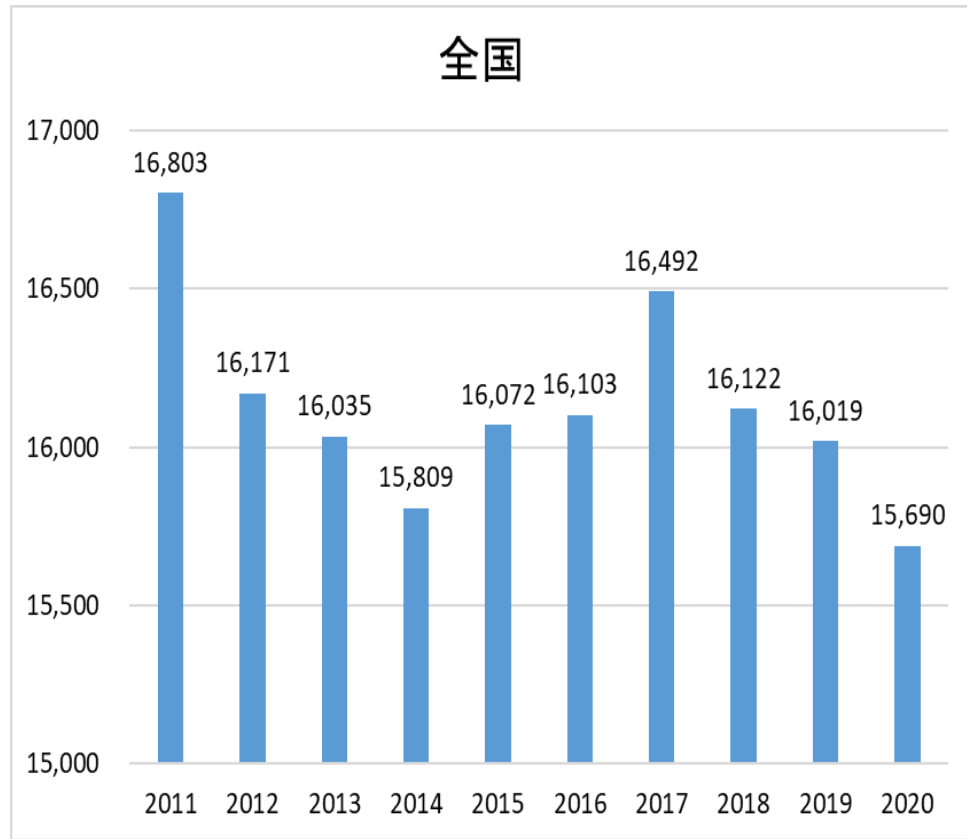
出典:「患者調査」(厚労省)を加工

出典:「図説 わが国の慢性透析療法の現況」(日本透析医学会)を加工

4 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について③

【目標値】糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数の減少 925人

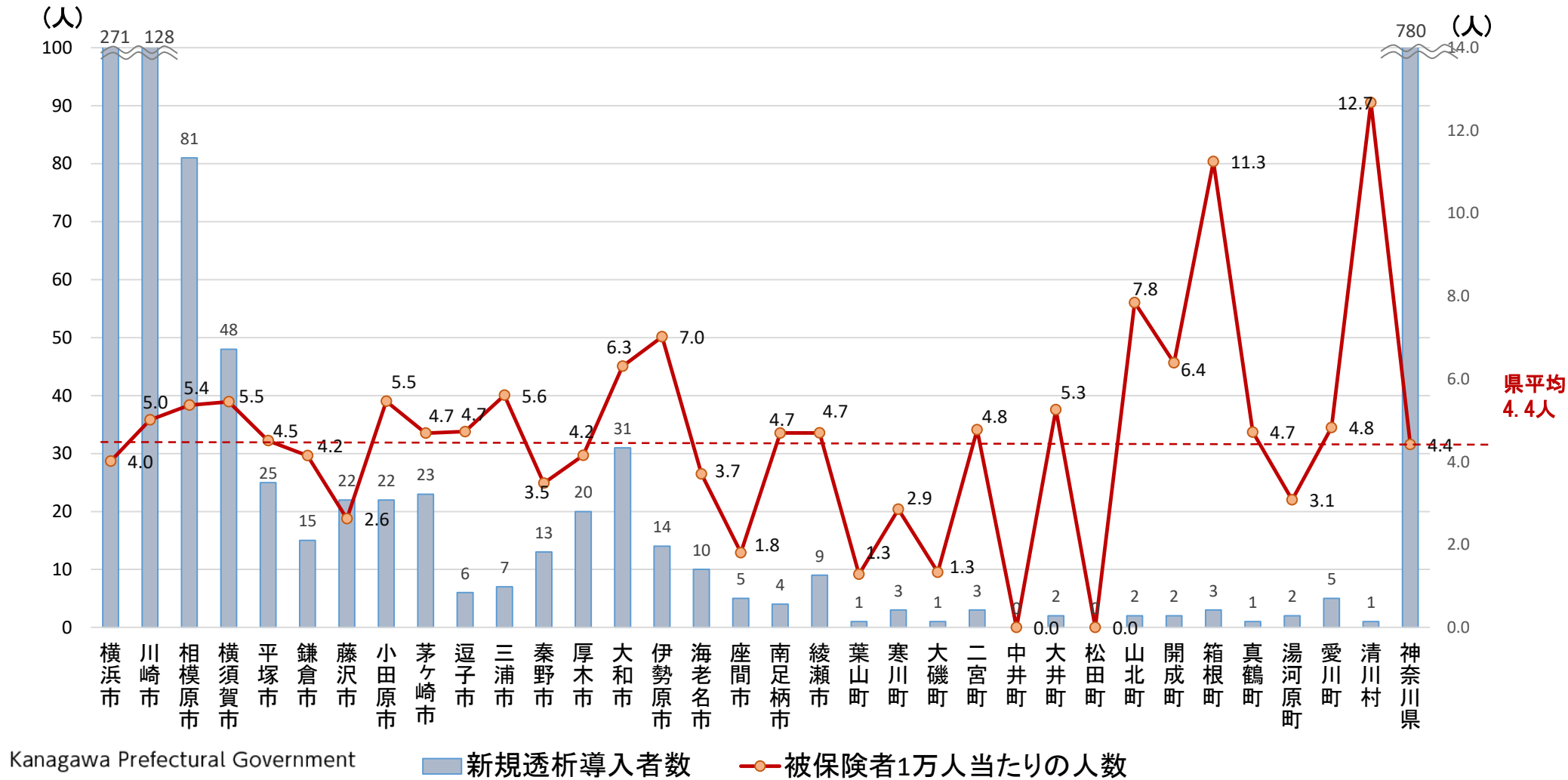
(1) 第二期計画から第三期計画にかけての実績値の推移



・糖尿病の
新規透析導
入患者数は
目標値達成
に近づきつ
つありま
す。

4 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について④

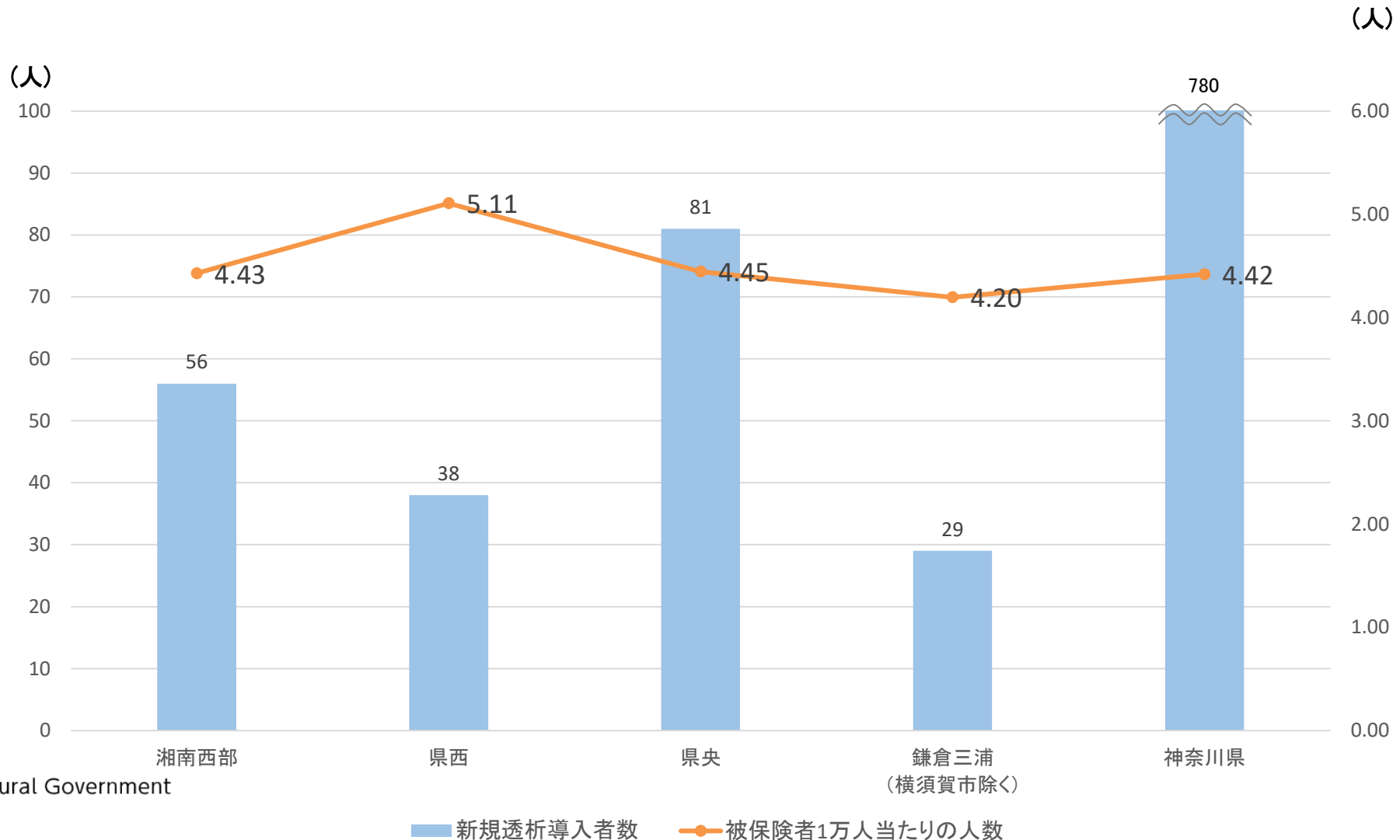
(2) 県内市町村の新規透析導入患者数（国保）（R2）



・国保における新規透析導入患者数は、被保険者1万人当たりの人数で見ると人口規模が中規模以上の市町村はいずれも県平均前後の人数です。

4 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について⑤

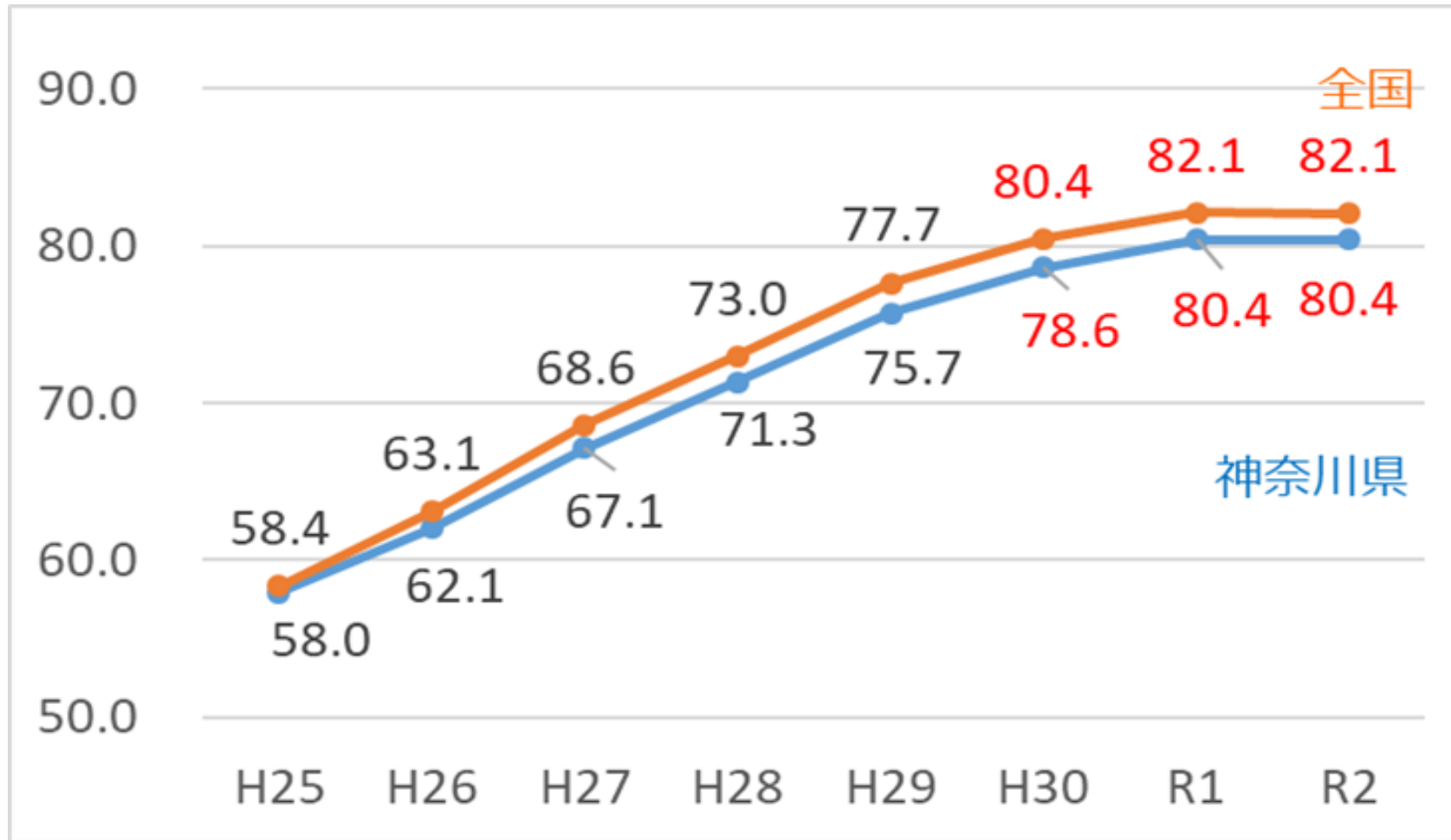
(3) 二次保健医療圏別（県域）の新規透析導入患者数（国保）（R2）



・ 県西二次保健医療圏域において新規透析導入患者数が多い傾向です。

5 後発医薬品の使用割合について 【目標値 80%以上】

(1) 第二期計画から第三期計画にかけての実績値の推移

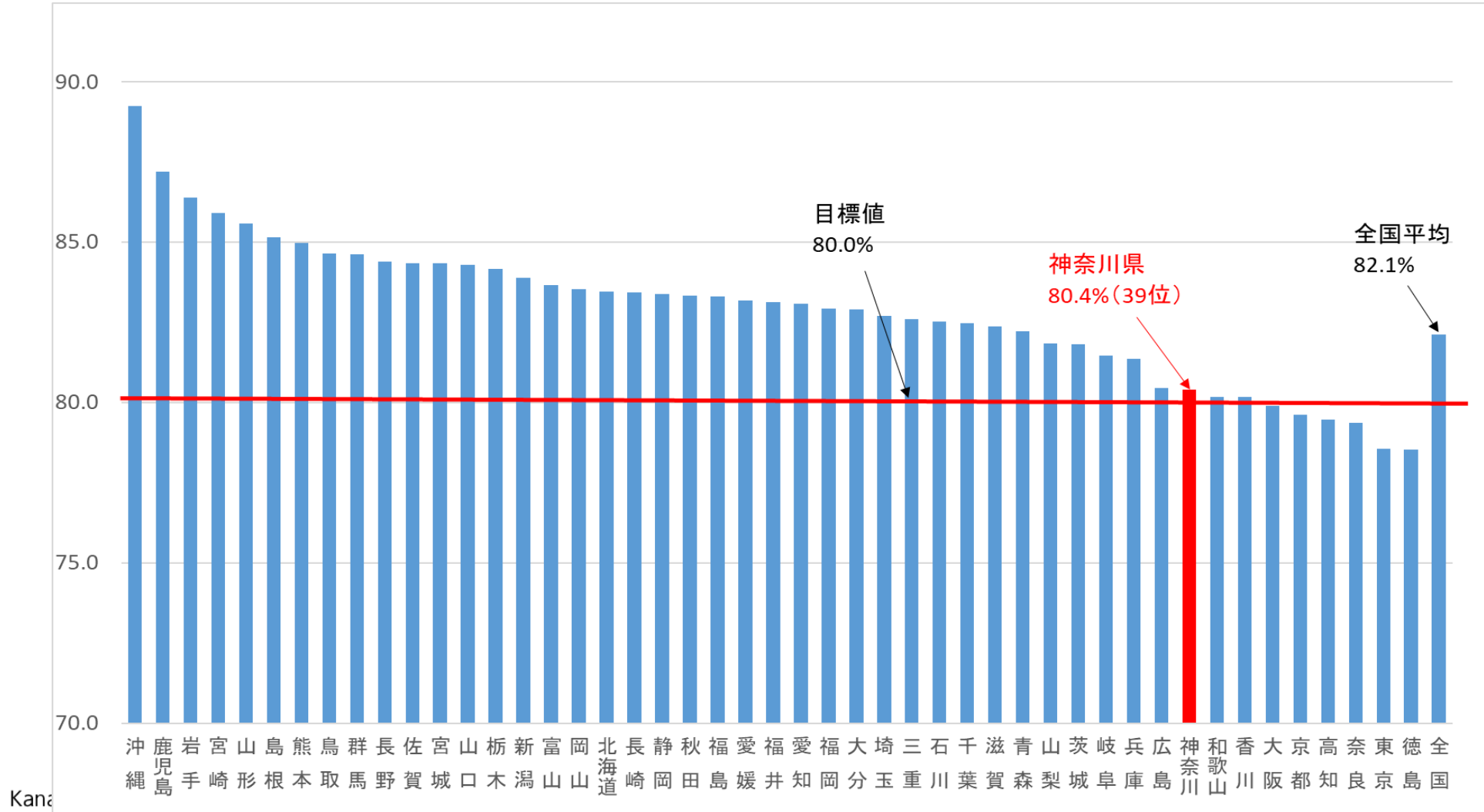


・後発医薬品の使用割合は、目標値の80%を超えましたが、全国の使用割合からは下回っています。

5 後発医薬品の使用割合について②

【目標値 80%以上】

(2) 令和2年度における目標値の現状



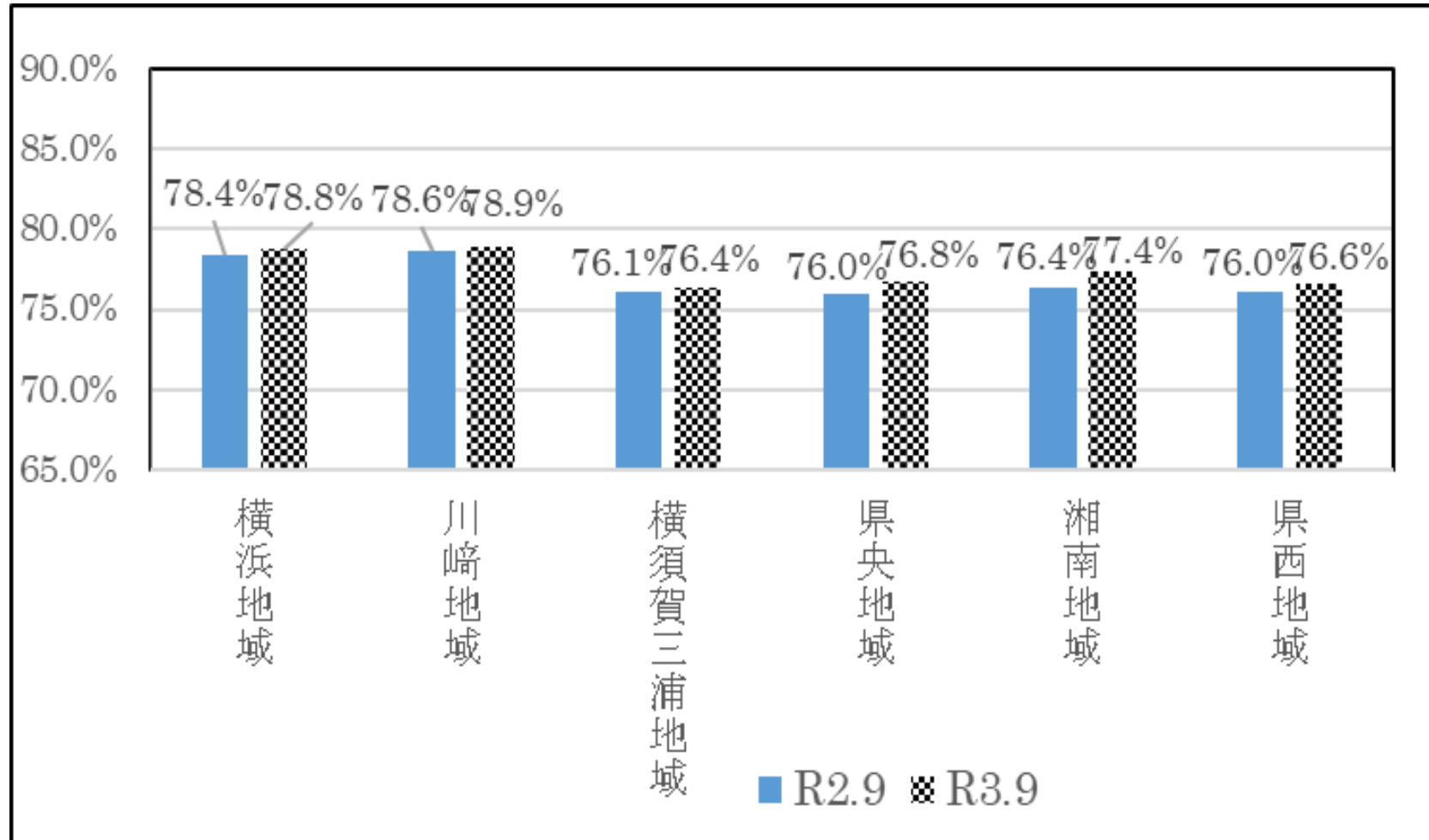
・後発医薬品の使用割合は、目標値（80%）を超えましたが、全国での順位は39位で全国平均に届いていません。

出典：【厚生労働省】調剤医療費の動向より

4 後発医薬品の使用割合について③

【目標値 80%以上】

(3) 神奈川県国保の地域別後発医薬品の使用割合



・神奈川県国保の後発医薬品の使用割合は、目標値80%は達成していません。

・なお、横浜、川崎以外の地域の使用割合が僅かに低い状況ですが、いずれの地域も令和2年から令和3年にかけて上昇しています。

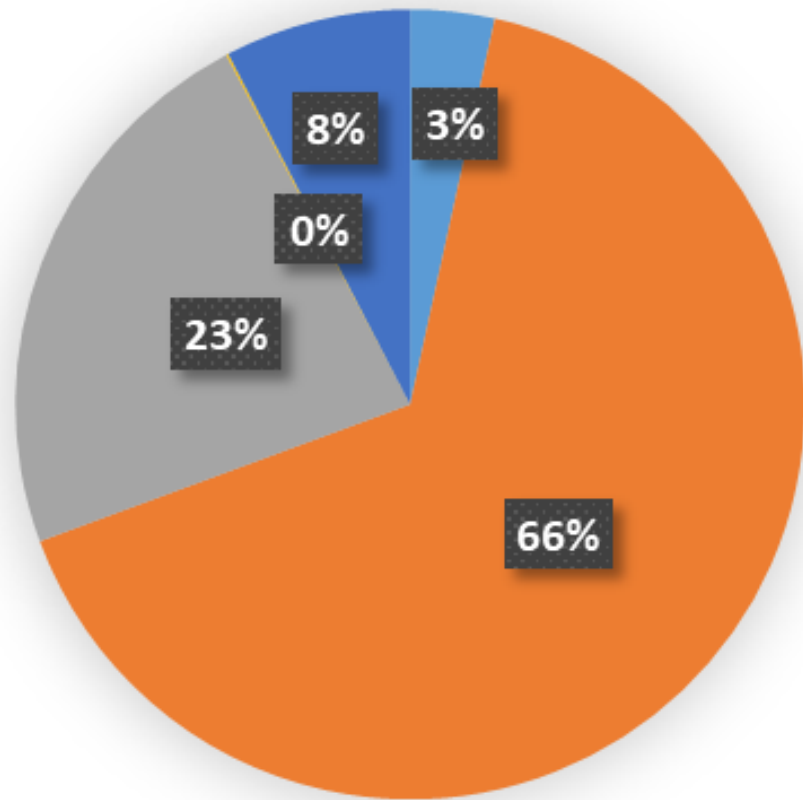
6 医療費の推計適正化の効果について

単位：億円

	201年度	201年度	202年度	202年度	202年度	202年度
①適正化前推計	29,707	30,548	31,388	32,228	33,069	33,909
②適正化後推計	29,644	30,422	31,999	31,977	32,754	33,532
③推計適正化額	▲63	▲26	▲89	▲251	▲35	▲377
④実績	28,081	28,889	27,925			
⑤実績適正化額 (④－①)	▲1,626	▲1,659	▲3,463			
⑥実績と推計の差 (⑤－③)	▲1,563	▲1,533	▲3,274			

6 医療費の推計適正化の効果について②

神奈川県2023年度適正化効果額の内訳



- 特定健康診査等の実施率の向上（13億円）
- 後発医薬品の使用促進（248億円）
- 糖尿病に関する取組の推進（86億円）
- 重複投薬の適正化（0.3億円）
- 複数種類の医薬品の投与の適正化（28億円）

・国は特定保健指導の医療費適正化の効果として、1人当たり6,000円、特定健康診査70%、特定保健指導45%を達成することにより、約200億円程度の医療費適正化の効果があると見込んでいます。

・2023年度の本県の推計適正化額（377億円）の内訳を分解すると、後発医薬品の使用促進が全体の2/3を占めています。